

市民との意見交換の実施結果について（平成 27 年度）

1. 実施概要

(1) 市民との意見交換

	各種団体との意見交換	市民ワークショップ
目的	第 5 章戦略プロジェクトについて、関係する団体の意見を把握する	八戸市のめざす姿の実現について、公募市民から提案を受ける
開催回数	5 回	全 4 回 (内訳 H26 : 2 回、H27 : 2 回)
日程	①生業づくり戦略 日時：5 月 11 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室	③市のめざす姿の実現に向けて① 日時：5 月 17 日(日) 14:00～16:30 場所：八戸市公民館 2 階 会議室
	②人づくり戦略 日時：5 月 14 日(木) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室	
日	③安心づくり戦略 日時：5 月 18 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室	④市のめざす姿の実現に向けて② 日時：5 月 24 日(日) 14:00～16:30 場所：八戸市公民館 2 階 会議室
	【第 8 回策定委員会】5 月 22 日(金) 13:00～14:00	
月	④魅力づくり戦略 日時：5 月 25 日(月) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室	⑤自治体経営戦略 日時：5 月 28 日(木) 18:30～20:00 場所：市庁別館 8 階 研修室
	公開討論会【第 9 回策定委員会】6 月 10 日(水) 14:00～15:40	

(2) 八戸市都市研究検討会からのヒアリング

日時：平成 27 年 5 月 27 日、28 日

場所：八戸工業高等専門学校、八戸学院大学、八戸工業大学

目的：シンクタンクの研究活動の参加者から第 6 次総合計画第 5 章戦略プロジェクトの内容を中心にヒアリングを実施

※八戸市都市研究検討会とは、八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校の 3 校と八戸市が連携し、地域が有する政策課題等に関する協議を行うことを目的に設立された機関

2. 実施結果

(1) 各種団体との意見交換

結果概要

戦略	プロジェクト	主な意見
①生業づくり戦略	1. 六次産業化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインや水産物などを県外へPRし、販売を行いたい。 ・漁業従事者の後継者育成などが必要である。 ・八戸港のブランド化に向けて、物流や資金の支援が必要である。
	2. 企業活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・企業数の増加に向けて、産学官の連携が重要である。 ・モノづくり技術をアピールした八戸港のブランド化を希望する。
	3. 雇用・企業促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地元での就職支援が必要である。 ・レジャー産業の誘致も積極的に希望する。 ・起業促進にあたっては、人脈や物流網、情報発信などがポイントとなる。
②人づくり戦略	1. 子育てプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館などの既存施設活用が重要である。 ・父親の子育て受け入れ環境への対応が課題である（授乳室やサークルなど）。 ・産後ケアの充実が必要である。 ・八戸ブッククーポン事業について、0歳、3歳、6歳など節目の時期にも行っても良いのではないか。
	2. 教育プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士・保育所職員などの人材確保や質の向上が課題である。 ・家庭教育については、親との連携が重要である。
	3. 女性活躍プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートに、高齢者参加の充実を図ってほしい。 ・女性を対象とした講習会などの充実が重要である。
③安心づくり戦略	1. 地域防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体との横のつながりの強化が重要である。 ・小学校での災害教育の充実が必要である。 ・いつ起こるか分からない災害に対して、夜間など様々なケースの避難訓練が必要である。 ・避難訓練へ参加しやすくするための工夫が必要である。
	2. 健康・福祉プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門人材の市外や県外への流出が課題である。 ・AEDなどの講習会の土日・祝日対応が必要である。 ・AEDの設置について、コンビニなどの24時間営業施設の活用が重要である。 ・認知症サポーターの公共施設への配置が重要である。

戦略	プロジェクト	主な意見
④魅力づくり戦略	1. アート・スポーツプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動で終わらせないために、総合的なグランドデザインが必要である。 ・アートはプロセスの楽しさに人が集まり、繋がっていくものである。 ・地域素材を生かしたアート活動が重要である。 ・仕事として取り組んでいける人材を増やすことが重要である。 ・小学生のスケート人口の減少が問題。競技力の強化のためには、練習期間を増やす必要がある。
	2. 八戸ツーリズムプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地にも水産などの八戸らしさを感じられるものが必要である。 ・情報発信のターゲットをどこに置くのか、どの程度の規模で進めるのかの分析が重要である。 ・八戸の種差は三陸海岸の玄関口であり、久慈市、宮古市等との回遊性を意識する必要がある。 ・外国人観光客への対応が必要である。
	3. 中心市街地活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや商売の工夫でいかに誘客し、盛り上げていくかが根本にある。 ・まちにいる人を元気にすることが重要である。 ・酒蔵などの武器を生かし、又は強みづくりを応援してもらい、人材を引っ張って活性化することが八戸の魅力に繋がる。
⑤自治体経営戦略	1. 協働のまちづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の加入率低下が町内会の運営に影響している。市の交付金のあり方にも取り組んでほしい。 ・従来の発想とは異なる町内会のイメージを与えることで加入しやすくしてはどうか。 ・町内会には市民活動団体等へのPRもしてほしい。 ・パブリックマインドをどう市民全体に広めるかを考えてほしい。 ・学校や文化施設が減っていく中で、どのように住民に納得してもらおうかというコミュニティデザインの手法が重要である。 ・市内の各種イベントについて、日時やジャンルの検索が可能な総合案内ポータルサイトがあると良い。
	2. 行財政改革プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラの維持補修が課題。人口減少の中で、必要なものをどう維持するか、将来の見通しが重要。 ・アクションプランは市全体ではなく、もう少し小さい単位で取り組むことが重要である。
	3. 広域拠点・連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通について市と協働で使いやすいダイヤを維持してほしい。 ・観光については、個々のPRではなく、協力して広域エリアで売り込んでいく必要がある。 ・地元の人と関わることで、その人に会いたいリピーター、ファンに繋げていける。そして、定住に繋がることも期待できる。

対象者	六次産業化、企業活性化、雇用・起業促進	No.	1
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 11 日
出席者	参加団体 15 名 市関係課 6 名 事務局 9 名 計 30 名		

■各団体からの意見

1. 六次産業化

①八戸市南郷新規作物研究会議

- ・旧南郷村と旧八戸市が合併して 10 年が経過し、旧合併特例法に基づく地域自治区「南郷区」の設置が終了したため、南郷地域の振興に向けて、新たな節目を迎えている。
- ・以前は、葉タバコの生産が盛んであったが、需要とともに生産量が減り、その代わりとして蕎麦の生産を開始したものの収益が少なく、生産量は伸び悩んでいる。
- ・平成 26 年度から、八戸ワイン産業創出プロジェクト事業の取組を開始している。ワインができるのは 4 年後となるため、そこから勝負となる。
- ・「農＝ぶどうを作る、加工＝ワインにする、経済＝流通」として事業計画を組んでいる。
- ・ワインについては、新たな産業として地元でも期待（興味）度が高く、地元だけではなく、県外にも積極的に PR し、販売していきたい。

②八戸みなと漁業協同組合

- ・漁業従事者の経営改善、後継者育成が必須である。
- ・漁船が老朽化しており、メンテナンス経費もかかる。そのため、行政からの補助金等の支援が必要である。
- ・地元市場では安く取引されてしまうため、地元市場より 3 倍の値が付く東京など首都圏へ直売りを増やしていきたい（地元も大切だが値段的に厳しい現実がある）。
- ・イカなどはできるだけ「活イカ」で出荷したいが、出荷量や流通面に課題がある。
- ・今後も「活魚」として販売を強化していきたい。

③八戸前沖さばブランド推進協議会

- ・地元飲食店でも、さばの新たな食べ方、料理方法などを発信している。
- ・さばのブランド化としては、「仕掛け」、「協調性」、「生産者・市場・マスコミとの連携」が重要である。

2. 企業活性化

④八戸商工会議所

- ・商工会議所としては企業数の増加をひとつの目標として取り組んでいる。
- ・産学官の連携が重要である。また、融資（銀行）、補助金（行政）等により、企業活性化ができる環境を整備していくことが求められる。

⑤アイピー倶楽部

- ・当団体は、各事業所の活性化を目的に調査・コンサルティング等を行っている。
- ・具体的には、各事業所を訪問・ヒアリングし、課題の整理・解決のお手伝いをしている。例えば省力化を目指す場合は IT 関係の業者を紹介するなど、各事業者が抱える課題に対して各種提案を行っている。

⑥八戸市企業誘致促進協議会

- ・企業を誘致する際、どのような分野の産業誘致が適しているかが大切である。立地（北東北、八戸港など）を生かした企業誘致が八戸では可能である。
- ・八戸のモノづくり技術を生かし、八戸港のブランド化を強化していきたい。そのためには物流面での支援や資金的な補助などが重要となってくる。
- ・行政でも企業誘致のプロジェクトを立ち上げ、人材交流、人材のコーディネートに取り組んで欲しい。

⑦八戸港国際物流拠点化推進協議会

- ・コンテナ物流は、震災直後、減少した経緯があるが、最近伸びてきている（コンテナヤードを2年後には拡張予定）。
- ・ポートセールスを東京、名古屋で実施しており、今後も八戸港をPRしていきたい。
- ・補助金制度を活用して、取扱量を増やしていきたい。

3. 雇用・起業促進

⑧連合青森三八地域協議会

- ・「六次産業化」の意味を市民にわかりやすく伝え、周知を徹底する必要がある。
- ・若者が市外に流出しないよう、レジャー産業の誘致もお願いしたい。
- ・地元に戻り就職したい人も増えてきていると思う。そのため、企業誘致の推進が重要である。
- ・八戸市は駅から中心街まで離れているため、中心街まで人を移動させるような新たな取り組みが必要である。

⑨八戸学院大学「起業家養成講座」受講生

- ・アワビなどを地域から世界に発信していきたい（地消だけではなく、地産から世界に発信していくことが重要）。
- ・起業を通して、地域に良い影響を与え、人口減少（流出）問題の解決に貢献したい。
- ・起業促進の課題として、流通なども含めたネットワークや情報発信の環境基盤を作っていけるかがポイントとなる。
- ・起業するための相談窓口を充実（整備）していくことが重要。行政として窓口整備の強化も重要。
- ・また、産学官の連携が重要である。
- ・安心して起業に取り組めるよう、子育て支援の環境整備も必須である（保育所の整備など）。
- ・在宅でも就業できるような環境整備も必要である（出産率向上にもつながる）。
- ・南部町で自然栽培ふれあい塾を実施している。産学官（金）の連携で事業化させていきたいと考えており、銀行と連携して実施している。南部町でモデル化し、他地域へ波及させていきたい。
- ・栽培は自然栽培（農薬・化学肥料不使用）で生産し、一般との差別化（ブランド化）を図っていきたい。
- ・新規就農者に土地を貸してくれる人は多いが、事業として継続するには資金がいるなどの課題が多い。現在の国の補助制度は新規就農者の支援に対しては不十分な点が多いため、八戸市独自の農業体制や補助金などの支援プランを作って欲しい。

以上

対象者	子育て・教育・女性活躍	No.	2
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 14 日
出席者	参加団体 19 名 市関係課 5 名 事務局 8 名 計 32 名		
<p>■各団体からの意見</p> <p>1. 子育て</p> <p>①NPO法人はちのへ未来ネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心街の子育て支援施設に来ることができない人達のために、居住エリア近くの公民館でも利用できるように整備して欲しい。 ・父親の子育てへの参加が多くなってきたが、授乳室やサークルなど男性が入りづらい環境になっているため、その部分の整備もお願いしたい。 ・気軽に母親たちが集まれる場所としての公民館利用の充実を進めてもらいたい。 ・公民館の利用を促進するため、受付時間や開館時間等の変更など、見直しも必要ではないか。 ・現在、高校生ボランティアなどにも携わっているが、家庭教育の重要性を再認識していくことが必要だと思う。 ・地域、子育てなど分野別ではなく、それぞれが連携し、輪となって考えていく必要がある。 ・学童保育所は増えているが、なかなか入所できない現実がある。ただ施設を増やせば良いということではなく、職員数の充実も含めて質が問われる。安心できる学童保育を行っていくためにも、行政側で現状を把握して欲しい。 ・産後ケアの充実が必要である。子育てについての情報や意見、アドバイスなどについて、先輩の母親や父親から気軽に話を聞いたりできる場があればよい（実際、親からもその様な要望の声が多い）。 <p>②ひがし子育てひろば（東地区子育てサロン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者にも参加してもらい三世代交流を実施するなど、多くのイベントを行っている。 ・男性スタッフが少ない、長続きしないという課題がある。そのため、行政でも男性を取り込んでいけるようなサポートをして欲しい。 <p>③八戸市保育連合会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の職員の人材不足が課題である。 ・受け入れ保育の基準変更に伴い、特に0歳児の幼児保育など、ハードルが上がったため、職員確保は必須課題である。 ・八戸ブッククーポン事業について、なぜ小学生が対象なのか理解できない。0歳、3歳、6歳など、節目の時期に行ってもよいのではないかと（幼少期に本の環境に馴染ませる）。 <p>④八戸市私立幼稚園協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟が別々の保育園に入所している現実があるため（待機児童問題）、一緒の保育園に入れるように環境整備をして欲しい。 ・幼児期の教育（スタートカリキュラム導入、小学校へのアプローチなど）を連携してできるような環境を整備し、八戸市でも是非、幼児教育の充実に取り組んでもらいたい。 			

- ・本の教育は今後も続けて欲しい（幼少期に親が読み聞かせをしてあげる行為の重要性）。
- ・女性が働ける環境整備に視点を置いて欲しい。

2. 教育

⑤八戸市連合父母と教師の会

- ・家庭教育が基本だと思うが、肝心な時に親がいない。親の教育も必要である。そのため、親との連携も重要課題といえる。
- ・最近、低学年児童のしつけに関する課題が目立つ。そのため、教員など 1 人に対して、アシスタントの人数を増やす必要があるのではないか。小学校に入学する以前、早い段階からサポートする必要があると思う。
- ・教育支援に関する市の人材バンクがあっても良いのではないか。地域の身近な人の紹介など。

⑥一般社団法人八戸市読書団体連合会

- ・出産可能な人口の推移はどのようになっているのか。親になれる人口は今後どう推移していくのかを分析することで、少子化対策は立てられるのではないか。
- ・女性が活躍できる体制、環境づくりを行政でも取り組んで欲しい。
- ・今後も八戸ブックスタート事業は続けて欲しいと思うが、親の質も問われる。親が言葉を教える（読み聞かせをしてあげる）ことが大切である。
- ・図書館を充実させて欲しい。例えば、学校の授業の中で、本に親しむ時間を作る、図書館見学などの図書館利用の教育なども実施して欲しい（教育委員会へも要望済）。

3. 女性活躍

⑦はちのへ男女共同参画推進ネットワーク

- ・地域と連携して活躍するファミリーサポート（育児や介護などについて助け合う仕組み）に、高齢者参加の充実を図って欲しい。
- ・地域活動を推進する事業を行政としても取り組んで欲しい。
- ・女性の人材育成は重要であるため、人生設計や教育の情報提供の場などを作って欲しい。
- ・地域で女性を支える政策の検討をして欲しい。

⑧はちのへウィメンズアクション

- ・女性を対象とした勉強会の充実が必要である。例えば、書類作成や各種申請などは、これまでの社会では男性が多く行ってきた業務のため、女性は知識不足である。
- ・会社での経験が豊富な男性の協力（教える側）が必須である。
- ・男性が子育てなどの現場に入る機会が増えてきたため、男性の子育てのための育休、産休など気軽に取得できるような環境整備を願いたい。
- ・50～60代の女性が地域で再就職できるよう、教育の場を作って欲しい。
- ・大学生など、最近はとりあえず就職できればいいということで、実際には自分にあった就職先、希望の就職先ではないことが多い。そのため、すぐ離職してしまったりするケースが目立つ。自分の人生設計を立てられるような教育（先輩からの社会の話、仕事についての姿勢など）やアドバイスをするなど、人材教育を充実させることが重要だと思う。

以上

対象者	地域防災、健康・福祉	No.	3
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 18 日
出席者	参加団体 12 名 市関係課 4 名 事務局 9 名 計 25 名		

■各団体からの意見

1. 地域防災

①災害ボランティアコーディネーター連絡協議会

- ・震災後 4 年経つが、担い手を増やせていない。これからどのように事業を進めていくかが課題である。会員数には変化はないものの、若い人に活動内容を理解してもらえていないのが現状である。
- ・市の社会福祉協議会などと、一緒に勉強会や事業を行う必要があると思う。
- ・各団体とネットワークを組んで活動することが理想だが、限界はある。その様な協力体制の部分八戸市でもバックアップして欲しい。
- ・市民の災害に対しての意識を教育していく必要があるのではないか。例えば、小中学生だけではなく、大人に対しても教育（勉強会など）していく必要がある。
- ・他組織との横のつながりが大切である。
- ・市と対話する機会があまりない。

②NPO法人青森県防災士会八戸支部

- ・小学校などで防災教育の出前授業を行っているが、全学年一斉に実施するスタイルである。低学年と高学年では教え方や理解度も異なるため、例えば 3 学年ほどに分けて（1～2 年生、3～4 年生、5～6 年生など）実施するのが理想だと思う。しかし、分けて実施すると、時間や講師料など学校側の負担も増すため難しい。
- ・老人クラブなど地域団体を対象とした活動実績は増えてきているが、避難訓練など毎回同じ団体が実施し、関係者ばかりの参加が目立つ。一般の人にも気軽に避難訓練ができるような工夫が必要である（例えば、景品をプレゼントする、ポイント制にするなど）。
- ・災害はいつ、どこで起こるかわからない。下校時や夜間の訓練も実施するなど、様々なパターンを想定した避難訓練も必要だと思う。
- ・避難所が本当に安全で安心な場所となりうるのか、設備点検、立地条件、避難道路の活用などについても意識することが重要。
- ・リーダー（代表）や同じ人ばかりではなく、多くの人に参加、発言できるような研修会を実施していく必要がある。実施曜日や時間なども考慮し、参加しやすい研修会の実施にむけ、改革が必要だと思う。

2. 健康・福祉

③八戸緩和ケアを考える会

- ・2010年から活動を開始し、90名ほど会員がいるが、意識アンケートを実施したところ、約7割の一般市人が緩和ケアについて、知らないというのが現状であった。そのため、より多くの人に緩和ケアについて理解してもらう必要があると思う。
- ・予算（会員会費）も少ない中で、講演会活動などにも限界があり、より多く実施していきたいが難しい。
- ・会員以外でも参加できる講習会などを実施していきたい。
- ・緩和ケアの専門病棟が市民病院にないため、看護学校の生徒が勉強した知識を生かし就職しようにもできず、県外へ就職してしまう（専門人材の流出）。
- ・講習会を実施しようにも、会場費が高い。また、ふさわしい会場（収容人数の限界など）がない。専門家や関係者を呼べるような学会、シンポジウムの実施、市民が学ぶ機会を増やせるような会場を作って欲しい。
- ・講習会の実施だけでは、緩和ケアの認知度が上がらないと思う。PR方法も工夫する必要があると感じている。
- ・対象者はどこに相談していいかわからない現状（認知度）があり、現在、自宅が会の窓口（電話）となっているため、きちんと窓口整備（事務局）をしていきたい。そのためにも、八戸市でも協力体制の強化に取り組んで、一緒になって考えていければと思っている。
- ・元気な高齢者が活躍できる仕組みづくりや雇用対策にも取り組んで欲しい。

④市民ボランティアサークル「いのちの輪」

- ・平成18年から活動を開始し、約10年経つが、AED普及活動自体はだいぶ増えたと思うが、会員数は開始時の40名程が現在半分の20名程になり、会員数をどう増やしていくかが今後の課題である。
- ・講習会は会社単位で行うものがほとんどで、毎回同じ所からの依頼が多い。新たな所（設置、講習会）にも声をかけてはいるが難しい。その理由として、AED自体が高価であり、その様な金銭的な部分が負担となっているのではないかと思う。
- ・AEDのメンテナンス費（実際使用した際には、設置者が負担しなければならない）や管理等が負担になっている場合がある。もっとPRし、操作方法も含めた講習会をより多く実施していきたい。
- ・多くの人にAEDを紹介する講習会や使用訓練を行いたいですが、消防・病院などの組織は土、日が休みで連携が難しい。休日でも訓練などが実施できるような体制をつくって欲しい。
- ・AEDの普及はしたが、管理の徹底には至っていない。
- ・コンビニなど24時間営業の場所に設置するなど、八戸市でも設置普及活動に取り組んでもらいたい。
- ・例えば、体育や保健体育などの学校授業の中でAEDの使い方訓練などを実施してはどうかと思うが、教育委員会との調整もあり、現実には難しい。本当は学習の積み重ねが重要で、子供の頃からの学習（しつけ）が大切だと思っている。

- ・八戸市はAEDの活用で命が助かった割合が日本一である。
- ・それぞれ活動している人は、「人を思いやる気持ち」が根本にあって活動しているのだと思う。そして地域には、まだまだ活動に興味のある人材がいると思う。そのようなマンパワーが集まり、勉強や講演会（集まり）ができるような会場や場所があれば、つながりが広がっていくと思うので是非、そういう場を整備して欲しい。

⑤公益社団法人認知症の人と家族の会青森県支部

- ・講習会など多く実施していきたいが、会場費負担が深刻な問題である。
- ・年代を越えて、認知症自体の理解を深める事が重要であり、今後も講習会などを行う予定ではあるが、参加をどう促すかも課題である。
- ・八戸市の担当課（部署）を越えて、相談窓口などのつながりを強化して欲しい。市民や関係者が連携していくことが大切で、そのための体制づくりの強化を求めたい。
- ・認知症サポーターが市役所にもいれば、安心できると思う。

⑥八戸地域介護支援専門員協議会

- ・災害時の安否確認など、今後、施設の職員で対応していけるか不安である。
- ・組織だけでは限界があり、事業所単位で支えるにも限界があるため、「守るにはどうするか」を各組織、部署など連携して考えていく必要がある。

以上

対象者	アート・スポーツ、八戸ツーリズム、 中心市街地活性化	No.	4
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 25 日
出席者	参加団体 16 名 市関係課 6 名 事務局 7 名 計 29 名		
<p>■各団体からの意見</p> <p>1. アート・スポーツ</p> <p>①八戸市民アートサポート団体 I C A N O F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代アートをまちづくりにどのような形で組み込むのか伺いたい。 ・芸術好きな方には良いが、一般の方にとって役に立つか分かりにくい。現在活動していても、思うように広がらない。 ・写真家などの芸術家を呼ぶ事は可能だが、総合的なランドデザインを持たなければ個々の活動で終了してしまう。 <p>②八戸工場大学プロジェクト事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を生かしアート活動を行う事は、他市町村にないプロジェクトとなる。 ・星空と一緒に工場を撮影できる等、他の工場には無い特徴を探していき、PRしたい。 <p>③泉彩菜日本舞踊稽古所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会に加入しているが、加入団体は約 150 団体、会員数は何千人もいる。その人達を市や、まちの取組に巻き込んでいく仕組みがほしい。総会時に取組のチラシだけが配られるが、直接、言葉等で魅力を感じ取れるような情報発信をしていただけると、市民を巻き込み楽しいことができるのではないかと。 ・市の助成金を活用して行った自分達の取組を市の担当者にも見ていただき、どんな事に協力しているのかをもっと知って欲しい。 <p>④まちぐみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸のまちをもっと楽しくしたい、楽しい物を作りたいという市民と集まり、店頭外観を大工仕事で変える、企画を提案し形にしていく等の活動を行う。まちで一緒に活動する中で、色々なお店の人と関わりを持つことでまちが近い存在となる。まちなかで繋がっていくことを目指す。このプロセス自体がアートプロジェクトでもある。 ・単独ではなく、組み合わせる事によって魅せる事も可能となる。科学変化が生まれ、面白い事・楽しい事が生まれて行けば良い。 <p>⑤酔っ払いに愛を実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年から横丁で「酔っ払いに愛を」プロジェクトを行い、今年 10 月で 7 回目となる。八戸ポータルミュージアム「はっち」と中心街商店街（特に横丁で商売されている方々）に実行委員会に参画していただき、共同で行っている。アーティストによるダンスパフォーマンス披露や映像を流す等のアートによって、幅広い文化的なものを感じられる街にしていく。 ・取り組んでいくなかで生まれるコミュニケーションが目的。 			

- ・活動の中で利用した場所をお客さんが知り、空き店舗が埋まるなど、そこに効果が二次的に生まれていく事を狙う。
- ・他のプロジェクトと比較し歴史が浅く、人材も少ない。
- ・必ずしも「ボランティアスタッフの参加人数」が指標とはならない。生業づくり戦略とも関連するが、仕事として取り組んでいける人材を増やす必要がある。
- ・人材育成は民間だけでは難しいため、行政の支援をいただきたい。

⑥青森県スケート連盟

- ・小学生のスケート人口の減少が問題である。連盟として年8回スケート教室を開催し、毎年150人～200人程の小学生が来るが、その中から競技選手を希望するのは1、2名程度である。
- ・小学生のスケートチームを作り、本格的な指導を行いたい。
- ・練習期間の問題もある。現行の12月1日オープンでは、他地域と圧倒的に練習量の差が付く。盛岡市は11月1日にオープンする。練習期間が増えれば、強化も可能である。
- ・優秀なコーチを招いての勉強会開催を7月上旬～中旬に計画している。
- ・屋内スケート場建設により国際大会誘致も可能となる。全日本大会を毎年誘致する話も日本スケート連盟から上がっている。

2. 八戸ツーリズム

⑦NPO法人ACTY

- ・地域の方を中心とし、地域の良さに付加価値を生み出す活動を行っている。
- ・地域資源を生かした着地型体験ツアーを開催している。(例：漁港にて漁師による食材案内)
- ・地域の方達の連携をとる必要性を感じている。
- ・地域の良さについて、市を通じて伝えていけるシステムがあれば良い。
- ・水産のまちだが、中心市街地からは水産の雰囲気は感じられない。中心市街地にも八戸らしさを感じられるものが必要。
- ・種差インフォメーションセンターまでの公共交通が不便である。現在は、鮫駅にてワンコインバスへの乗り換えが必要となる。中心市街地からの直通バスを望む。
- ・日本中から種差海岸に来る方がいる一方、興味を持っていない市民が多い。来ても楽しみ方が分からない方もおり、もっと種差の良さを感じてほしいところである。魅力の伝え方を日々考えている。地域の人と県外の方を繋げられる何かがあれば、みんな興味をもつのではないか。

⑧種差海岸振興協会

- ・司馬遼太郎、吉田初三郎関連で種差海岸を訪れる方もいた。こういった資源もある。
- ・今秋の9月24日から27日の間、青年会議所全国大会東北八戸大会が開催される。種差海岸で式典を行い全国に紹介してもらおうという事で、取り上げてくれるマスコミも増えてきた。そういったメディアへの露出機会は多いが、自分達がほとんど見てお

らず、その情報を発信出来ていないのが現状。観光課と情報共有し、市民へも情報を流し、見てもらえるようにしたい。

- ・情報発信のターゲットをどこに置くのか、どの程度の規模で進めるかの認識が必要。
- ・八戸の種差は三陸の北の玄関である。久慈市、宮古市等の回遊性を意識した方がよい。
- ・八戸市は自転車競技人口も多く、市民が利用できる自転車競技場もある。冬期間もイベント利用出来る様にドーム化を望む。
- ・ツーリズムはボランティアに頼らず、地元の人にお金が回り継続可能な仕組みを市で考えてほしい。特に、若者が暮らしていける仕組みが重要。
- ・ハラルに特化すべき。八戸にはハラルの輸出産業の会社がある。ノウハウを共有し、水産とハラルで漁港をコーディネートする事でベジタリアンも取り込め、周辺にはないものができる。
- ・アートはプロセスが楽しく、そこに人が集まり繋がっていく。ディレクターになっていただける方もいるので、投資基金をつくり、プロジェクトに若者が参加できる仕組みづくりが重要。皆が集まらないとできない様な事を考えるべき。
- ・魅力づくりについて、他地域と似たようなものである場合が多い。新たなものを作るならば、若者を集め、投資し、継続できる仕組みづくりが重要。NPOのような形でも出来る。
- ・外国人観光客（特に、ガイドを利用していない個人客）への対応をしきれていない。また、街中も同様だが、施設内に英語表記が無く、受け入れ態勢が整っていない。

⑨市民ガイド八戸協会

- ・新幹線開通時にビジネス・観光客が増える事を前提に14年前に当協会が作られた。現在は、観光コンベンション協会の「まちぐる」の商品の中に組み込んでいただいている。八戸えんぶり、三社大祭、まち歩き、車中ガイドの4本柱でガイドしている。ガイドの客数は多くないが、利用料金をいただき行っており、協会の財源となっている。
- ・屋内スケート場建設により国際大会開催条件が整う。海外選手団がメディアも含め八戸市に入ってくる時代がすぐそこまで来ていることに大きな期待感を持っている。青森県の冬季観光にも結び付くところである。
- ・屋内スケート場の夏季の活用方法としては、産業市、見本市、各種アート活動及びライブ等がある。チケットを販売してお客を誘客しなければならない時代が来る事を見込んでいただきたい。
- ・国の重要無形民俗文化財である三社大祭がユネスコ無形文化遺産登録により格上げされることで、NHKが八戸を取り上げてくれ、ねぶた同様に全国区に放送され、大いにPR力を発揮する。
- ・新しい美術館の建設が課題であり、期待する。三浦哲郎の文学記念館も必要な施設である。
- ・種差インフォメーションセンターと駐車場が出来た事で賑わっている。必要施設を拠点的に整備する事で八戸市は発展要素を持っている。
- ・八戸市オールロケ映画「ライアの祈り」は非常に好調だそうで、市のPRとなる。

- ・商店街の整備が進んでおり、非常に綺麗に整備され、街中がバリアフリー化している。今年の三社大祭は見やすくなる。
- ・青年会議所全国大会が開催されるが、こういったものを起爆剤にして、時代を開く力を皆が持っていないといけない。

3. 中心市街地活性化

⑩八戸市中心市街地活性化協議会

- ・中心街活性化のため郊外型と差別化しての企画に取り組んでいる。そのひとつとして、単独企業では成し得ない共通駐車券の取り組みを行っているが、駐車場の無人化が進み共通駐車券が利用できない場所も増えてきた。現在、機械化に対応すべくヒアリング中。駐車場は、まちに来る目的を持った人の受け皿であり、サービスのひとつとして一本化したい。
- ・2010年6月18日に中小企業憲章が閣議決定されて、まもなく5年が経過する。三沢市、十和田市では中小企業振興条例という理念条例を設け取り組んでいる。経営者側が自店の必要性を作っているかということは理念に関わってくる。行政が条例を制定することで、様々な業種・業態の人達のまとまりをサポートしていくことになる。北海道では、もっと盛んである。原点を考えていくことで、全ての目的意識を深めていけると良い。
- ・人がいないことをプラスにどう捉えるか、大手が手を出せない小さいマーケットを我々がどうするかである。五所川原市のエルムも同様の戦略である。

⑪八戸中心商店街連絡協議会

- ・お祭り、ホコテン、七夕等のイベントで、いかに誘客し盛り上げていくかが根本にある。
- ・中心街に大きな商業施設（建物）ができる流れになってきている。また、スケート場建設により影響を受けると思われる。
- ・各代表は熱意があるが、働く方々に同様の熱意があるかは疑問ではある。
- ・中心街に八戸ポータルミュージアム「はっち」ができ、人は増えた。回遊性の数字が上がったとしても商売が成り立たないと盛り上がることは難しい。それぞれの商売の工夫で誘客できることが根本にある。
- ・中心商店街の地図やポータルサイトを作り発信しているが、そこにいる人を元気にすることを考えた方が良い。
- ・八日町に酒蔵があることを知らない市民もいるが、蔵に連れてきてお酒を飲んでもらい、それが商売に繋がり、魅力発信となる。武器を生かし、又は強みづくりを応援してもらい、人材を引っ張って活性化することが八戸の魅力に繋がるのではないか。

以上

対象者	協働のまちづくり、行財政改革、広域拠点・連携	No.	5
会場	八戸市庁別館 8 階研修室	開催日	平成 27 年 5 月 28 日
出席者	参加団体 14 名 市関係課 3 名 事務局 9 名 計 26 名		

■各団体からの意見

1. 協働のまちづくり

①八戸市連合町内会連絡協議会

- ・町内会加入率が非常に低い。町内会加入促進会の立ち上げ、各種団体との連携協議、市の窓口での取組等を行ってきた。成果があって加入者は増えている反面、町内会活動についていけないということで脱会希望される一人暮らしの高齢者もいる。一緒に活動していけるよう、町内会費の免除、班長の役割を町内で協力するなどの取組を行っている。
- ・加入率低下により、町内会の運営にも影響している。市の交付金のあり方についても取り組んで頂きたい。
- ・アンケートを取りながら様々な取組を進めているが、町内会の中でも高齢化の影響を受けていると感じる。
- ・街灯管理、ゴミ集積所管理、子供会への助成等様々な活動を行っていることを理解していただきたい。
- ・アパートの加入率が低く、平成 25 年 9 月に不動産業界と「八戸市における町内会等への加入促進に関する協定」を締結した。
- ・昨年、市内の小・中学校の公聴会に出席した際、教職員の未加入者が結構いたため、加入のお願いをした。
- ・それぞれの地区で連合町内会運動会を行っているが、年々大人の参加者が少なくなってきた。小・中・高校生に参加してもらうことで父兄の参加に繋げている。
- ・町内会役員が高齢化し、将来が心配である。若者と一緒に活動し、役員をバトンタッチしていきたいが、若者は仕事等でなかなか参加できない現状にある。
- ・自分の町内では町内会活動を知ってもらうために、町内会未加入者へもチラシ等を配布している。
- ・町内会に加入していないため、お祭りの案内が届かず、子どもがお祭りに参加できないのは、非常に可哀想である。
- ・三社大祭の際、山車の無い町内会と交流し、自分の町内の山車に参加してもらっている。
- ・努力して積極的に動いていかないと加入者は増えない。

②市民活動サポートセンターわいぐ運営会議

- ・平成 14 年に市民活動サポートセンターが開設されて以来、順調に登録団体が増えている。既存団体の活性化と、ボランティアや市民活動等へ新たに関わる方を増やしていくことをベースに活動している。
- ・既存団体活性化の取組として、交流会を毎年 1、2 回開催している。既存団体の交流を通じ、先々連携していける関係を作ってもらおうことが狙い。

- ・現役を退き、余暇で社会貢献を希望される方も多い。一步踏み出す手助けとして「市民活動サポートカフェ」を開催している。思いをキャッチボールできるような場にしようという意味を込め、カフェという名称とした。やりたい事を話してもらい、それに合った活動団体を紹介している。中には自分で立ち上げたいという方もいる。また、平日夜の開催時には仕事後に来る方もいる。今後も継続していきたい。
- ・新たな取組として、市内高校生に交流会に参加してもらい、ボランティアをテーマとしたグループディスカッションを行った。単にボランティア体験したというところにとどまらず、先々、主体的に自分達で課題を見つけ解決に取り組んでいけるようになるよう、今後も関わりを持っていきたい。
- ・八戸市では「協働のまちづくり基本条例」が制定されており、市民活動や行政への市民参加はある種先進的である一方で、町内会加入率は全国的に見ても低くギャップがある。参加する人、意識の高い人、行政だけの活動ではなく、パブリックマインドをどう市民全体に広めるかを考えてほしい。
- ・意識が高まれば、おのずと町内会加入率も高くなるのではないかと。
- ・まちづくりについての市の考え、市民参加の願いを伝える分かりやすいパンフレットを作成し、設置するだけではなく、市民活動団体が集まる場、子育て中の親が集まるような所で、パブリックマインドの大切さを説明し、共有していくことが必要である。
- ・人口減少により今までに無かったような問題が出てくる。多様な価値感が溢れる中で、どのように、まちづくりに感心を持ってもらうかが重要である。学校や文化施設が減っていく中で、どのように住民に納得してもらうかというコミュニティデザインの手法が重要となってきている。地域の課題をどう解決するか、地域づくりコーディネーターを育成して各団体のコーディネートを行い、それぞれの団体を繋いでいくことが重要になる。
- ・市内の各種開催イベントについて、日にち・ジャンルの検索が可能な総合案内ポータルサイトがあると良い。
- ・横のつながりが重要である。弘前市では、まちづくり団体が集まり、各団体のイベントがバッティングしないように調整する会議がある。八戸にも同様のものがあれば良い。

2. 行財政改革

③八戸市行政改革委員会

- ・インフラの維持補修が課題である。人口減少により過剰となるインフラも出てくる。
- ・財政面では、今後、国や県に頼れなくなる。構想段階だが、人口 20 万人以上で社会資本を整備する際は、民間活力（PFI と PPP）を導入した社会資本整備を義務づけ、国に頼らせないという話が、とある審議会の中で出た様子。
- ・人口減少の中で、必要な物をどう維持するか、将来の見通しを立てたうえで、着地点を考える必要がある。
- ・市全体ではなく、もう少し小さい単位で取り組まないと、何も行動に結びつかない。
- ・町内会は個人の次の単位である。防災面から見ても地域の要となる。

- ・広域観光を例にとっても、最後には地域の細かい接点にいかなければ、発見できないことがたくさんある。町内会には市民活動団体等へのPRをしていただきたい。

3. 広域拠点・連携

④南部圏まちづくり推進協議会

- ・ナニヤドヤラ婚活バスツアーを開催して、今年で3年目となる。住んでいると分からない魅力を感じていただき、南部圏地域の方と出会い、定住していただけると、人口減少の歯止めになるのではないかと。第1回開催では6組のカップルが成立した。うち3組が結婚し、2組は子どもが産まれた。
- ・商工会とふるさとフェスタを開催して22年目となる。南部地域内の郷土芸能・特産物を通じ、自分達の住む地域の魅力を感じてもらいたい。
- ・昨年より、久慈商工会議所青年部と人的交流を始めた。圏域を越えて、商売に繋がれるような事業を進めたい。二戸市との交流も行っていきたい。
- ・当会のメンバーが減少している。メリットを感じ、参加してくれるような魅力ある団体づくりを目指している。
- ・当会を運営する八戸商工会議所青年部は年会費も少ない。助成金等を活用して活動している。
- ・人との交流をしない人が多い。横のつながりを広げたい。人を集める手法とどう繋げていくかが必要であり、課題である。
- ・一部の方が活動している状況。解決は難しいが、投票率を含め、まとまりがない地域というのは、とても恥ずかしいこと。
- ・「利」を感じられる地域でなければ人は集まらない。企業が元気でなければ、まちは潤わない。
- ・元気な地域は、活発で、知恵を出し、若者から発信していく。衰退している地域は、地域のまとまりすら作れない状況である。
- ・地産地消をまとめて起こせば、この地域は凄い市場となる。
- ・女性の参画も必要だが、地域自治において、男性が弱いと感じる。子ども会の会長は皆、女性である。自治意識が薄く、まとまりのない地域は活性化しないと思う。ここを改善すれば全てリンクして改善していけるのではないかと。
- ・家で子育てをするお母さんにスポットを当てることで、町内会にもメリットがでてくるのではないかと。

⑤公益社団法人八戸青年会議所

- ・地域との連携、また人と地域の結びつきが必要。
- ・青年会議所は、単年制度で毎年、内部の委員会名が変わる。また、委員長の方針によって毎年、重点テーマが変わる。今年のテーマは「無限の可能性を切り開く」である。
- ・2年前から市民活動サポートセンターわいぐの協力を得ながら、ボランティア活動等をしているが、人集めが一番難しいと感じる。町内会も同様である。
- ・アパート住まいの方は、町内会未加入のイメージがあるが、昼は仕事で不在の方が多し。そんな中で、近所づきあいも無くなってきている。若い人にはゴミ捨てのた

めに、町内会に入るイメージがあるのではないかと思う。町内会費を安くするなど、今までと違った発想をもつことで、町内会に入りやすくなるのではないか。

- ・市民をどう巻き込んでいくか。発信側の手法は限られている。受け手側が重要となるが、積極性に欠けており、問題視している。

⑥八戸市地域公共交通会議

- ・上限運賃、八戸駅線の10分間隔運行、バスパック等、様々な事業に取り組み、バスの利用者減に歯止めがかかっている状況。しかし、少子化により、今後、バス利用者減少が予測される。学生・高齢者・障がい者の方には、バス交通は必須であり、なんとか今の路線・ダイヤを維持していきたい。
- ・元気な高齢者がバスを利用し、街へ賑わいをもたらすように繋げていきたい。高齢者が使い易いバスとなるよう、低床バスの導入、分かりやすい等間隔ダイヤ、近隣自治体の連携を踏まえた郡部に行きやすいダイヤ、そういったことを考えていきたいが、事業者だけでは不可能。市と協働で使いやすいダイヤを維持していきたい。
- ・バスパック考案でダイヤを確認した所、使えないダイヤになっていることが判明したことがあった。観光に使える土日の新しいダイヤ設定など、前向きなダイヤ編成を協力しながら行っていきたい。

⑦八戸広域観光推進協議会

- ・八戸市近隣町村の2次交通が弱い。観光の体験コンテンツはあっても、公共交通で行けない。また、宿泊施設がほとんど無い。八戸市が広域観光の中心となっていかに得ないが、各町村の方は八戸に飲み込まれる意識を持っているのではないか。
- ・個々のPRではなく、協力してエリアで売っていくことが必要。広域観光によって、複数地域が地域特性を生かすことにより、ポテンシャルの向上や、無いものを補い合えるといったメリットがある。より効率的な観光推進が可能になり、また、情報発信により、それぞれのシティプロモーションにおいても繋がる。八戸の総合計画等に広域観光の推進を謳ってほしい。
- ・以前は観光資源となり得なかった地元の食べ物やまち歩き（横丁、朝市）が観光となり、それを楽しみとする方が来る。地元の人と関わる事で、その人に会いたいリピーター、ファンに繋げていける。他地域では定住にも繋がっている。
- ・広域観光の長期ビジョンが現在はない。町村と比べ余力のある八戸市がイニシアチブを取り、長期的展望に立ち、エリアで売っていくことが必要。

以上

(2) 市民ワークショップ

【第3回】

- ・テーマ：市の目指す姿の実現に向けて①
- ・会場：八戸市公会堂文化ホール 2階会議室
- ・開催日時：平成27年5月17日 14:00～16:30
- ・出席者：一般公募市民15名 事務局9名 計24名

①安心づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 地域防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・防災無線の設置・災害訓練、防災訓練・施設の長寿命化、リノベーション・防災組織づくり・震災の記憶の風化防止・世代間交流の促進・活動団体への行政支援・避難路整備	<ul style="list-style-type: none">・施設の有効活用・情報発信の工夫・意識付けの方法・子供の見回り隊などによる気兼ねない仕組みが必要・普段から関わりあえるコミュニティが重要
2. 健康・福祉プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・関係機関の連携強化（行政、地域包括支援センター、介護支援センターなど）・ラジオ体操の促進・専門医療の確保・医療従事者の確保・意識啓発	<ul style="list-style-type: none">・医療機関の勤務形態の改善・健康に関する正しい知識を発信・健康寿命への意識・かかりつけ病院を持つ

②魅力づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. アート・スポーツプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼアートの誘致 ・ イベントの企画、実施 ・ PR、広報 ・ ツアー商品化 ・ 競技大会の誘致 ・ ファンクラブの設立 ・ スポーツ施設への公共交通の充実 ・ プロアスリートによる教室等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果を把握する仕組み ・ 体制の見える化 ・ 資金の確保 ・ 市民ニーズの把握 ・ 景観を損ねる不要な看板等の撤去
2. 八戸ツーリズムプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブランドコンセプトの明確化 ・ 地域ストーリーづくり ・ 港湾の魅力発信 ・ 観光案内板の設置 ・ 映画ロケの誘致 ・ PR、広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会の設置 ・ SNSによる発信、交流 ・ 観光資源の再整理（裏道などの魅力） ・ レンタカーの活用
3. 中心市街地活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き店舗の活用（デザイナーの起用） ・ 市街地への主要施設の集約（学校や企業） ・ 各種イベントの開催（スタンプラリー、宝探しゲーム、街コン） ・ 子供の習い事や部活等の送迎、見回り ・ 歩行空間の整備（バリアフリー化等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民ニーズの把握 ・ 自動車交通問題への対応

③自治体経営戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 協働のまちづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等との協働 ・町内会への全戸加入の検討（条例化等） ・地域人材の育成 ・コミュニティデザインの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップなど市民が参加しやすい工夫が必要 ・世代間の連携・交流 ・公民館やコミュニティーセンター利用拡充
2. 行財政改革プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公民連携（PPP）事業の推進 ・行政職員の人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民の通訳的民間のコーディネーター人材育成 ・市民の意見収集、パブコメの取り方の工夫
3. 広域拠点・連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の充実 ・観光圏的広域連携（NPOと自治体が共同で運営） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会、まちづくり等の有効活用（民間企業、団体への職員派遣、人材交流）

【第4回】

- ・テーマ：市の目指す姿の実現に向けて②
- ・会場：八戸市公会堂文化ホール 2階会議室
- ・開催日時：平成27年5月24日 14:00～16:30
- ・出席者：一般公募市民17名 事務局9名 計24名

①人づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 子育てプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業での子育てサポート ・未婚者の集いの場 ・出産前のサポート ・不妊治療や養子縁組のサポート ・子供手当（3人目以上とか制限付き） ・育メン支援 ・子供の預かり体制 ・子供に地場産業に関わるものをプレゼント 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して参加できる場づくり ・NPOとの連携 ・企業の活用 ・街コンに併せた公共交通の整備
2. 教育プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸と首都圏の若者交流 ・社会教育・キャリアアップ支援 ・中高生へ地域学を学ぶ場 ・職業訓練を低学年から導入 ・電子図書館 ・ブック横町の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導による事業化 ・子供の節目に家庭訪問
3. 女性活躍プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい時間をマッチングさせる仕組み ・憧れるイメージ像の発信 ・ワークシェアのモデルプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てプロジェクトとセットによる取組 ・企業ニーズの把握 ・男性の協力

②生業づくり戦略

プロジェクト	具体策・事業	留意点・工夫点
1. 六次産業化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の活用 ・人材育成（市場分析、サービス改善、ストーリーづくり） ・近隣市町村との連携（観光プロジェクト） ・地元農家とクリエイターの連携による発信 ・空き農地の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかマルシェ ・生産者の声を発信 ・販路からの戦略
2. 企業活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン、クリエイティブの導入 ・付加価値を高めるための支援 ・企業による起業家里親制度の導入 ・都市在住出身者コミュニティで横断交流の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外との積極的な連携
3. 雇用・起業促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる場の整備 ・コミュニティビジネス、SNS ビジネスの整備 ・「はっち」などインキュベーションスペース（起業家の育成や、新しいビジネスを支援する施設）とコアワーキングの連携 ・高齢者の起業支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段への意識が違う（都市：公共交通、田舎：車）

(3) 八戸市都市研究検討会からのヒアリング

結果概要

戦略	プロジェクト	主な意見
①人づくり戦略	1. 子育てプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会にあわせた結婚しやすい環境の整備が求められている。その際、民間企業のノウハウを学ぶことが重要。 ・子育てについては、乳幼児健診の実施が重要。
	2. 教育プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の際に、将来的に八戸に戻ってくるよう愛着を育むことが重要。 ・現在、電子書籍が普及しているが、やはり活字で読むことが重要。 ・「本を自ら所有する」文化を広めていく観点から、ブックセンター事業を進めて行くことが必要である。当該事業では「アートのまちづくり」を絡めて選書していくという視点も重要である。 ・文化的産業の育成が若者や女性、あるいはUターン者の定着に寄与する。
	3. 女性活躍プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍については、“三世代同居”が重要。これによって、福祉の課題（子育てなど）を解決することにも繋がる。
②生業づくり戦略	1. 六次産業化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸縦貫自動車道の整備によって、岩手県北との結節性が強くなるため、そのような地域との連携が重要。
	2. 企業活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり産業の後継者不足が懸念される。 ・10、20年先に、八戸市は何を強みとするのかということをきちんと考える必要があるのではないか。 ・誘致企業の技術を地元企業に移転することが重要。 ・再生可能エネルギーと他の分野（例：農業など）と連携することが重要。 ・企業誘致の推進や企業の促進のため、空き家・空きビル利用を結び付けられないか。
	3. 雇用・起業促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・文化力を高め、他地域から戻ってくる仕組みを構築することが重要。 ・UIJターンのことをきちんと考えさせるため、小学校から高校までの期間に地域の理解を深めるとともに、八戸から出て行く時には、八戸から出て行くということをきちんと印象づけることが重要。 ・八戸のイメージが誤って伝わっていないか。首都圏で雪深い地域と思っている人が多い。

戦略	プロジェクト	主な意見
③安心づくり戦略	1. 地域防災プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会・自治会に対してネガティブなイメージを持っている人が多いように感じるので、払拭する必要があるのではないか。 ・津波ハザードマップの浸水エリアのまちづくりが重要。
	2. 健康・福祉プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・食習慣は居住環境に関連しているため、他分野との関連性を踏まえて施策を展開することが重要。
④魅力づくり戦略	1. アート・スポーツプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインのもつ機能性は問題解決を可能とするので活用してはどうか。 ・アートに関しては、主要なメンバーが固定化していることが多い。自分たちだけの世界に限定せず、多くの人を巻き込んでいくことが重要。
	2. 八戸ツーリズムプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内板の多言語化については、地元の意向も把握することが重要。 ・観光案内板のハード整備だけではなく、アプリケーションの活用などソフト面の整備も重要。 ・通過型観光では八戸の魅力が分かりにくいので、中期滞在に取り組んでいく必要はないか。
	3. 中心市街地活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口を拡大させるためには、企業誘致、観光、学校がポイントとなる。 ・大学等の講義を中心市街地でやってはどうか。 ・八戸に住みたいと思わせる魅力的な施設が必要。 ・中心市街地の駐車場が空洞化のイメージを与えている。道路側の修景が必要ではないか。
⑤自治体経営戦略	1. 協働のまちづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・山車の存在は町内会の活性化に大きく貢献している。 ・自治会へのネガティブイメージを払拭する必要がある。
	2. 行財政改革プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の縦割りを見直すことが必要。施策を横串で通して展開していくことが重要。 ・八戸で先進事例を作っていくという意識を持って、取り組んでいくことが重要。
	3. 広域拠点・連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生や仕事での滞在にスポットを当てて交流人口を拡大してはどうか。

対象者	八戸市都市研究検討会参加大学教員	No.	1
会場	八戸工業高等専門学校	開催日	平成 27 年 5 月 27 日
人数	2 名		

■意見

1. 人づくり戦略

- ・少子化による入学年齢人口の減少は、入学倍率に影響を与えている。そのような中では、高等教育機関が地域と連携して実績を残し、自らの存在価値をいかに高めていくのかということが課題となるのではないかと。それは、地方大学も同様で、地域内の大学の役割を明確化するともに、いかに地域で活躍する人材を育成できるか、ということが求められている傾向になってきている。
- ・高専の卒業生の中には、大手企業を志向し、大都市圏へ転出する者も多い。大都市圏に行き、経験を積むことは有意義である。そういった所で力を付け、いつか地元に戻って活躍してくれることが理想であり、期待する所である。
- ・大都市近郊の高校では生徒数が多く、教員も手が回らないことがある。しかし、人口が少ない地方都市では、高校に限らず、周囲から手をかけて育てられるため、優秀な人材を育成する環境が整っているともいえる。
- ・他地域に出ていき、様々な経験を積むことは良いこと。重要なのは戻ってくる仕組みをきちんと整備することであり、また、戻ってくるインセンティブとなるような地域の魅力・文化力が備わっていること。

2. 生業づくり戦略

- ・八戸の農林水産資源は岩手北部と共有する部分がある。三陸縦貫自動車道の整備が進むと、八戸と岩手沿岸県北（久慈・野田地域）との結節性が強くなると思う。さらに南の田野畑・普代地域となると、宮古・盛岡と八戸のどちらと結びつくかが微妙なところなので、注視していく必要がある。
- ・農業・漁業について、「拠点を集約し効率化を図ること」と「小規模に地域内で循環させていくこと」ではベクトルが逆である為、そこをどのように整理していくのか考える必要がある。
- ・ものづくり産業の後継者が不足しているように感じる。地元企業に人材を供給することは高等教育機関の役割でもあると思うが、企業の人材ニーズを把握することは難しいし、仮に把握したとしても、個別の企業ごとに異なるニーズに対して、細かく対応することが困難。ただし、トレンドを掴む事は重要である。
- ・産業・運輸業ともに省エネに努めているが、一般家庭の省エネが不十分であると感じる。

3. 安心づくり戦略

- ・コミュニティ力の強化が重要。高齢者だけでは活性化しないので、どのように若者や他地域から来た住民を、コミュニティに取り込んでいくかということが大きな課題。

- ・青森県では、短命県返上のため、減塩・運動等の取組を進めている。実は着目されていないが、原因のひとつとして、この地域の「寒さ」がある。やはり寒さが健康に与える影響は大きい。冬季が近づくにつれて救急搬送が増加するが、これは居住環境を改善によって解消される可能性がある。また、食習慣が居住環境に影響を受けていることがあるように、健康とは違う分野に着目し、施策を検討することも重要。

4. 魅力づくり戦略

- ・アートという言葉をごとまで広げて解釈するかにもよるが、建築デザイン、リベラルアーツ（教養）、インダストリアルデザイン（工業デザイン）、景観、ソフト的なコミュニティデザインまで含んだ、広い意味でのデザイン力を色々な所で意識したテコ入れしていくことが、八戸の文化力を強化するための一つの方向性。
- ・「アート」という単語より「デザイン」の方が理解されやすいところがあるのではないか。
- ・美術や有名アーティストのライブなどがない。
- ・デザインは、綺麗、美しいということだけでなく、機能性を有しているため、問題解決を可能とするものである。
- ・いかに交流人口を増加させていくかが重要となる。観光による一時的な滞留よりは、留学生や仕事による滞留にスポットを当てていった方がいいのではないかな。
- ・また、国際化が進む中で外国人をどのように受け入れていくか。治安の悪化などネガティブな捉え方をしているところがあるが、そのような地域は対策に出遅れてしまいやすい。積極的に策を講じて、多文化への対応と、他地域から入ってくる方が地域に魅力、リスペクトを持てるようなありかたで交流を進めて行くところが生き残れるのではないかな。

5. 自治体経営戦略

- ・交通の効率化は、八戸の居住地が分散している状況を考えると難しいところ。インフラの維持など行政コストの面からも住宅街の集約化が望ましいと思うが、それぞれの地域で市民の生活が成り立っていることを考えると難しい問題。

6. その他

- ・人口減少の影響が、5年、10年のスパンでどういったことが起こるか予想した上で、施策を考えることが重要。産業面では、人口減少が進行すると、ものづくりの後継者が不足し、持続出来ない状況が起こりうるのではないかな。
- ・地域社会、教育現場等、生活の中で起こる弊害が、どこでどのように取り上げられるか、それを誘導するような部分が多少あっても良いのではないかな。深刻な問題に対し、即効性がなくても今から長期的視点に立って対応すべきことを盛り込んでおいた方が良い。

以上

対象者	八戸市都市研究検討会参加大学教員	No.	2
会場	八戸学院大学	開催日	平成 27 年 5 月 28 日
人数	2 名		

■意見

1. 人づくり戦略

- ・現代社会にあわせた結婚しやすい環境の整備が必要。その整備にあたっては、民間企業のノウハウを学ぶことが重要。
- ・中には結婚したくないと考える人もいるので、その意向を把握しておく必要がある。
- ・街コンのターゲットとなる人がどの程度いるのかなど、マーケティングをきちんとしてから実施した方がよい。
- ・現在、電子書籍が普及しているが、やはり紙で活字を読むことは重要。そういったことから本のまちプロジェクトは重要だと思う。
- ・「本を自ら所有する」文化を広めていく観点から、ブックセンター事業を進めて行くことが必要である。当該事業では「アートのまちづくり」を絡めて選書していくという視点も重要である。
- ・結婚適齢期の人が何人いるのか把握した方がいいのではないかな。
- ・子育てについては、乳幼児健診が重要。
- ・女性活躍については、福祉の課題にも繋がる“三世帯同居”がカギになるのではないかな。

2. 生業づくり戦略

- ・10～20 年先、八戸は何で強みとするのかということを中心に考える必要がある。そこが人づくりや生業づくりのポイントではないかな。
- ・誘致企業の地場企業化が重要である。誘致企業の技術を地元企業に移転することによって、地域の産業が活性化していく。
- ・再生可能エネルギーは単独で取り組むより、他の分野と連携することが重要。特に農業分野との連携がいいのではないかな。そのためには、農地の地権者に対してビジネス意識を芽生えさせることが重要。
- ・他の地域では、下水道処理施設でバイオマスエネルギーを活用しているところが多い。
- ・小学校から高校までの期間に、Uターンのことを考えさせていないのに、社会人になってから、Uターンしてもらうのは難しいのではないかな。
- ・例えば、小学校から高校までの期間にきちんと将来（Uターン）のことを考えさせた上で、八戸では高校を卒業する 18 歳の時に、町に残るのか、町を出るのかについて選択させるといった人生の大きなイベントを経験してもらう。このことを経験し、記憶させることによって、仮に出ていったとしても、何らかのタイミングでUターンのことを思い出しやすくなるのではないかな。
- ・また、UIJ ターンについては、子育て世帯や高齢世帯など様々なケースがあると思うので、その点を想定しておくことが重要である。
- ・UIJ ターンの意志決定に有益な情報は、先進事例である。これまで UIJ ターンで八戸に戻ってきた人たちから情報を収集し、Web サイト上で発信してはどうか。なお、情

報収集の際には、有益な情報を提供させるため、有償にすることが重要。そうすることによって責任を持たせることができ、有益な情報が得られやすい。そうしなければ、人をひきつける情報は集めにくく、無駄な情報ばかりとなってしまう。

3. 安心づくり戦略

- ・防災の観点から中心市街地活性化計画を考えることが必要。
- ・自治会へのネガティブなイメージを払拭する必要がある。そのため、行政で町内会でのイメージ改善プロジェクトを行ってはどうか。

4. 魅力づくり戦略

- ・中心市街地のエリアマネジメントとして、老朽化が進んでいる建物をリノベーション（既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与えること）することによって魅力的な街区を形成することが必要。
- ・交流人口を拡大させるためには、企業誘致、観光、学校がポイントとなる。
- ・アートに関しては、主要なメンバーが固定化してしまっていることが多い。いかに周囲を巻き込み、関係者を増やしていくかが重要。南郷区アーティスト山本耕一郎氏の事例は、幅広い世代を巻き込んでいる。
- ・観光案内板の多言語化については、地元の意向を把握することが重要である。
- ・観光案内板などのハード整備はコストや時間がかかることが多い。アプリの活用などソフト面を充実させれば、低コストでいいものができるのではないかと。
- ・中心市街地活性化については、中心街での講義の実施などを大学に働きかけてみてはどうか。若者が中心街に集まるきっかけとなる。
- ・アートプロジェクトは、ほかのプロジェクトへ波及する。

5. 自治体経営戦略

- ・行政の縦割り意識を見直し、施策を横串で通して展開していくことが重要。
- ・戦略プロジェクトを各部署でそれぞれの角度から実施していくことが重要。
- ・八戸が先進事例を作っていく意識を持って、事業に取り組んでいくことが重要。
- ・役場のイメージアップを図るため、役所の職員のクオリティオブライフを高めることが重要である。

6. その他

- ・これまでの経験から、複数の課題を一挙に解決するような知恵を出すことが重要。総合計画でも、そのような施策があるとよい。例えば、UIJターンと企業誘致、出産を一緒に解決するため、どのような施策が重要となるかを考えてみてはどうか。

以上

対象者	八戸市都市研究検討会参加大学教員	No.	3
会場	八戸工業大学	開催日	平成 27 年 5 月 28 日
人数	大学教員 1 名		

■意見

1. 人づくり戦略

- ・子どもの医療費助成が他市より早く打ち切られているように思う。
- ・八戸には多様な産業があるが、文化的な産業を育成し、新たな就業機会を増やすことが重要である。例えば、フィンランドのマリメッコ（※1）やイッタラ（※2）などを目指してもいいのではないか。

※1・・・フィンランドのアパレル企業及び同社が展開するファッションブランド名

※2・・・インテリアデザインを専門とするフィンランドのデザイン企業及び同社が展開するファッションブランド名

2. 生業づくり戦略

- ・企業誘致の推進や企業の促進について、空き家・空きビル利用に結び付けられないか。
- ・現在、国が進めている地方創生の一環で、建築基準法を見直し、建物の用途変更の基準が緩和される動きがある。そうすると空きビルの活用方法が拡大される可能性がある。また、現在、廃校した小学校があるが、校舎の活用方法をきちんと検討する体制が必要である。このままであると廃校は自立運営できない公民館になってしまう。
- ・八戸のイメージが誤って伝わっていないか。首都圏の知人と話をすると八戸は雪深いというイメージを持っている人が多い。一度、調査して、その結果を踏まえた適切なまちのPRが必要である。

3. 安心づくり戦略

- ・津波ハザードマップにおける浸水地域のまちづくりが重要。
- ・湊橋付近のウォーターフロントは景観資源として評価が高い。積極的に活用していくべき。
- ・安心して歩ける歩行空間の整備が必要である。

4. 魅力づくり戦略

- ・近くに住みたいと思わせるような強力な文化度をもった施設が必要である。（例えば、函館の蔦屋書店のようなもの）
- ・八戸駅前の景観は、人口（23 万人）よりも小さな都市の印象を与えているように感じる。
- ・コンパクトシティによるまちなか居住の促進は下火になってきているのではないか。ヨーロッパではコンパクトシティが一定の成果をあげているが、まちづくりの歴史が異なる日本で同じようなことをしても、効果は出にくい。
- ・むしろ市内スーパーマーケットが実施している移動販売は、地域包括ケアに合致する取組であり、まちなか居住より現実的である。

- ・中心市街地の駐車場が空洞化の印象を与える。道路側を緑化するなど修景が重要である。
- ・通過型観光では八戸の魅力が分かりにくいので、中期滞在に取り組んでいくべき。
- ・アートのまちづくりの推進については、本のまちと連携することが重要である。
- ・観光客が地域を移動する際、歩道や車道の整備が悪いとまちのイメージダウンにもつながりやすい。街灯、誘導ブロック、バス停を含めた魅力的な整備が重要である。

5. 自治体経営戦略

- ・中核市のメリットがよく伝わっていない。
- ・学生が放課後や休日を中心街で過ごす機会を減らしているのが課題。
- ・三社大祭の山車づくりやお囃子の練習は、町内会の活性化に大きく貢献している。
- ・子育て世帯が移住を検討する際、児童手当や子どもの医療費助成に着目する。また、学力の高さとスポーツが盛んなのは好評価となる。なお、児童手当よりは雇用が優先の姿勢でよいと考える。

6. その他

- ・特になし。

以上

(4) 公開討論会（第9回八戸市総合計画策定委員会）

結果概要

①事前意見等に関するディスカッション

事前意見 1	「少子高齢化、人口減少に対応した女性と高齢者の活用。実現可能な対策が講じられるような総合計画にしてほしい。」
<ul style="list-style-type: none"> ・女性や高齢者活用については行政と民間企業にそれぞれ取り組むべき課題がある。 ・行政側はこれまでの取組をさらに推進し、民間企業側は自ら女性・高齢者活用を考えていかなければならない。 ・特に、高齢者の活用については、定年制が60歳から65歳に引き上げられる方向で検討されている中、民間企業の努力が必要である。 ・ボランティアポイント制度の活用などにより、高齢者のボランティア活動を促進するための取組が進められている。 ・就業環境の改善に向けた市の取組について、今後注目していきたい。 ・子育て世代の定住促進については、行政と民間企業が協働・連携しながら考えていく必要がある。 ・将来の出生率の目標については、国や県の水準を勘案し、他市町村の設定も参考にしながら、十分な分析を踏まえ設定する必要がある。 ・まずは、このような委員会に女性を参画させていくことが重要である。 	
事前意見 2	「今、改めて考えてみよう！なぜ八戸市は“市役所”ではなく“市庁”なのか？そこから八戸市の未来を考える！」
<ul style="list-style-type: none"> ・今の子育て世代やこれから子育てしていく世代が過ごしやすいまちづくりを進めていくことや、高齢者がこうした取組をサポートしていく体制が重要である。 ・元市長が市役所を“市庁”と名付けた気概は受け継いでいきたい。 ・人口減少・少子高齢化への対策に早急に取り組まないと手遅れになる。将来的に市を支えていくためにどのくらいの人口が必要なのか分析する必要がある。 ・東北地方は短命であり、元市長の気概をもって取り組むことが求められている。 ・人口減少については、町内会活動にも大きな影響を与える。 ・晩婚化が少子化の要因のひとつになっている。 ・結婚に対して、農家では嫁をもらっても生活していけるのかという不安を持っている人が多い。 ・外国人などの交流人口が増えている。八戸駅内は4か国語に対応している。 	
事前意見 3	「平成22年10月に閣議決定の「中小企業憲章」の取り組みを八戸市でも検討していただきたい。」
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業憲章について、基本条例を定めることについては、今後、市が中心になって検討していくことである。具体的な事業については今後検討を進めていく。 ・中小企業憲章に掲げられている行動指針の内容については、概ね、総合計画の戦略プロジェクトで対応している。 	

②フリーディスカッション

- ・青森県は短命県であり、町内会で特定健診の受診率を向上させようと取り組んでいる。特定健診の対象者に直接働きかけをしたいが、市から名簿を提供してもらうことはできないか。
- ・地区社会福祉協議会の取組の中で、ほのぼの交流協力員としてボランティアを募り、各町内で月1回程度一人暮らし高齢者世帯を訪問し、その結果を定例会で情報共有している。
- ・中心市街地活性化について、これまでも取組を進めてきているが、一向に活性化されていないように感じる。
- ・市民がワクワクするようなまちなか整備を実行してほしい。例えば、まちなかの駐車場などのスペースを活用して物産を販売してはどうか。
- ・大きな政策としては部会で議論してきている。具体的な事業については市が検討していくことになる。
- ・アートのまちづくりについては、美術館の活用が重要であると思う。
- ・第5次総合計画の検討段階では今回のような討論の場が無かった。今回はこのような場が設けられたが、平日の日中であることもあり、市民の参加が少ないことが寂しい。市民に協働の意識を持ってもらうことが重要である。

第6次八戸市総合計画「公開討論会」(第9回八戸市総合計画策定委員会) 議事録

日 時：平成27年6月10日(水) 14:00~15:40

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

全体出席者：110名

出席委員：20名

藤田委員長、大谷副委員長、類家委員、岡田委員、川本委員、平間委員、小向委員、工藤委員、吉田委員、小野委員、高木委員、川村委員、古戸委員、越後委員、大黒委員、米内安芸委員、田頭委員、中川原委員、平山委員、橋本委員

(※欠席12名：米内正明委員、馬場委員、門前委員、青野委員、武輪委員、八木委員、松田委員、河村委員、澤藤委員、浮木委員、町田委員、西川委員)

市民参加者：20名

第6次八戸市総合計画策定推進会議委員：15名

第6次八戸市総合計画戦略プロジェクト検討ワーキングチームメンバー：41名

事務局：14名

大坪総合政策部長、中村総合政策部次長兼政策推進課長、久保参事(政策推進グループリーダー)、谷崎主幹、成田主査、中野主査、坂本主査、佐々木主事、附田、伊藤(株)ケー・シー・エス 東北支社 室谷、石田、岡田、長瀬

次 第：

- 1 主催者あいさつ
- 2 第6次八戸市総合計画の概要説明
- 3 フロアディスカッション
 - (1) 事前意見等に関するディスカッション
 - (2) フリーディスカッション
- 4 意見交換の総括

次第 開会

司会：皆様、本日はお忙しいなかお集まりいただきまして、ありがとうございます。只今より、八戸市総合計画策定委員会主催による、第6次八戸市総合計画「公開討論会」を開催いたします。本日の公開討論会は、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料を御確認いただきまして、公開討論会に入りたいと存じます。皆様にお配りしております資料といたしましては、次第、資料1「第6次八戸市総合計画原案の概要」、資料2「主要事業の一覧」でございます。また、本日より実施している第6次八戸市総合計画原案への意見募集のチラシをお配りしております。過不足等ございましたら事務局までお申し付けください。よろしいでしょうか。

次第 委員長あいさつ

司会 : それでは、公開討論会の開催にあたりまして、主催者を代表いたしまして委員長より御挨拶を申し上げます。

委員長 : 参加者の皆様におかれましては、大変お忙しいなか、第6次八戸市総合計画「公開討論会」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、近年国全体の問題として、人口減少や少子高齢化が進行するなど、我々を取り巻く社会経済情勢は大きく変化してきており、市では、そのような時代の動きも踏まえ、平成28年度から5か年を計画期間とする第6次八戸市総合計画を策定しているところです。総合計画は市政運営や市のまちづくりの方向性を定める計画であり、昨年度の7月に八戸市総合計画策定委員会が設置され、これまで策定委員会を8回、専門部会を4回にわたり開催し、計画案の検討を進めて参りましたが、この度、計画の原案を取りまとめました。計画の策定にあたりましては、市民の声を最大限に反映させるため、これまでも市民アンケート調査、市民ワークショップ、各種団体との意見交換等を通じ、市民の皆様の意見の把握に努めてきたところです。本日は計画原案に対する意見募集の開始に合わせ、当委員会が直接市民の皆様と意見交換するため、公開討論会を開催するものであります。この後は次第に従って、初めに策定委員会から計画原案の概要について御説明申し上げた後、会場の皆様にも御参加いただきながら自由に意見交換をするフロアディスカッションを行いたいと考えております。参加者の皆様におかれましては、限られた時間ではありますが八戸市総合計画をより良いものとするため活発な議論をしていただきますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会 : ありがとうございます。ここからの進行は、引き続き委員長にお願いしたいと存じます。

次第 第6次八戸市総合計画の概要説明

委員長 : それでは、第6次八戸市総合計画原案の概要について御説明申し上げます。会場のスクリーンまたはお配りしておりますA4横版のカラーの資料1を御覧ください。はじめに私からこれまでの策定経緯や計画の概略について説明させていただきます。その後、市の重点施策となります5つの戦略プロジェクトについては、策定委員会内に設置した専門部会において議論を進めておりますことから、戦略順に各専門部会長より御説明申し上げます。それでは説明に入らせていただきます。

〔資料に基づき委員長、各専門部会長説明〕

次第 フロアディスカッション(1) 事前意見に関するディスカッション

委員長 : 続きまして、ここからは会場にお越しの皆様とのフロアディスカッションに入りたいと思います。なお、御発言の際には挙手いただければマイクをお持ちいたしますので御利用願います。フロアディスカッションでは、はじめに皆様から事前にいただいております意見等について、ディスカッションを行いたいと思います。事前にいただいております意見等についてのディスカッションが終わりましたら、次に皆様から自由に御意見を御発言いただくフリーディスカッションを進めて参りたいと存じます。なお、本日のディスカッションに際しては計画に関係する市の担当者も出席しております。本日はディスカッション形式ですので、皆様は遠慮なさらずに総合計画に関することや、今後のまちづくりに関することについて多

くの御意見をいただければ幸いに存じます。また、可能な限り多くの皆様に御発言いただく機会を設けたいと思いますので、ひとつの意見に対する議論が長くなった場合には、ある程度のところで区切らせていただき次の意見に移ることもございますが、趣旨を御理解の上、御協力いただければと思います。

委員長：それでは1つ目の御意見です。「少子高齢化、人口減少に対応した女性と高齢者の活用。実現可能な対策が講じられるような総合計画にしてほしい。」という御意見をいただいておりますので、提案者より補足説明があればお願いしたいと思います。なお、補足説明がない場合でも、お名前と補足説明がない旨の御発言いただければと思います。

参加者A：今、少子高齢化に向けて、女性の活躍推進、シニアの活用・活動が注目されていると思います。女性については、ワーク・ライフ・バランスと言われているように、男性も女性も輝いて自分の人生を生きていく為に、働きたいと思えば働ける環境、子育てしながら働きたいと思える環境を整えていただきたいです。先程、安心安全づくりで地域の防災が挙げられています、女性達は地域で十分今も活躍されていると私は思います。ですが、決定の場に女性達はなかなか上がってこず、意見が出せないというのが現実だと思います。女性達が意見を言い活躍できると更に女性が活躍しやすくなり、子育て中のお母さんへも子供に配慮した地域で活動する場の提供が出来ると思いますし、高齢者や様々な弱者でも地域で活躍出来る場が生まれてくるのではないかと思います。施策として、女性やシニアの活躍出来る場と、市で人材育成に取り組み、学んだ人達が活躍できる場を作っただけだと、学び、生かしていくことが出来るのではないかと思います。

委員長：大変ありがとうございました。只今の御意見に対して、委員の皆様から御発言ありませんでしょうか。

A委員：御意見大変ありがとうございました。私どもの部会でも同じような議論がございました。これまでも県あるいは市で色々な施策を行ってきておりますが、特に女性の活用については、行政が行う部分と、民間の企業も努力していかなければならないものと2つがある。幸いな事に八戸市では、行政で色々な女性の活躍の場を設け、女性の活躍の場の比率を高めようという施策を沢山これまで行ってきておりますので、それをまた更に推進していこうという方向であります。特に、男女共同参画社会を考える情報誌「WITH YOU」を発行し啓発に努めておりますし、ビジネススキルの養成講座、女性チャレンジ講座の開催にも取り組んできております。もう一つは、行政だけではなく、民間の子育て支援あるいは休業、あるいは再就職についても、民間自らが考えていかなければならない。特に、労働人口はこれから減少していきますので、女性達が働きやすい環境づくりを民間企業が努力していかなければならないと考えております。それから、高齢者の活用についても御指摘いただいた通りだと思います。国では今、定年制を60歳から65歳に拡大していきたいという方向性を出しておりますので、職場環境においても各企業が努力目標に沿って、これから高齢者の活躍の場を広げようという動きがあります。それ以外にボランティア活動もありますが、促進する為のボランティアポイント制度事業へも取り組んでいるという事で、色々な事業を検討しているところでございます。

B委員：今のA委員の説明に補足させていただきます。「第5章戦略プロジェクト」の「戦略1人づくり戦略」の「3. 女性活躍プロジェクト」の施策2に「就業環境の改善を図ります」と

いう文言がございます。当初、この前の文章の時に、企業への働きかけといったような文言があり、それをここに書いていただきたいと提案したのですが、就業環境の改善というところに企業を啓発する意味合いも含まれるというお答えでしたので、是非これから注目していきたいと思います。

C委員：私も専門部会に御一緒させていただきました。専門部会では多種多様な意見が出されまして、一貫して先程A委員が言いましたように、出会いの場の創出というのが今回の新しいところかと思いました。それに対しても沢山の議論が出され、これから行政が行うことかどうかという面からも議論させていただきました。これから子育て世代の定住者を八戸に呼び込んでいくためには、そのような施策も大切になっていくであろうと思います。市民活動のレベルが大分高まっていますので、これからは協働で行政とマッチングしながら行っていくべきものが沢山出てくることも考えられます。市民側としても、どのように市の施策を活用しながら市民活動を活発にし、子育て世代の定住数を増やしていくかを連携しながら真剣に考えていかなければならない、そのことを専門部会でも検討しました。

A委員：別な観点からですが、議論を進めている中で、一番大事なのは総合計画原案の注目指標（プロジェクト指標）だと思います。合計特殊出生率については現状ですと、平成21年1.32、平成26年1.44という指標がありますが、将来どの辺に設定していかなければならないのか。あるデータによると、人口を維持していく為には1.62以上でなければならないという値があります。先般、九州のある自治体に行ってきたのですが、人口問題が第一にあげられており、そこでは合計特殊出生率の目標を2.07に設定している。九州は随分積極的だなと思います。現状を維持しても労働人口が増えていくには10年以上の長いスパンで考えなければならぬ問題ですので、この指標についてはもう少し分析をし、踏み込んだ指標が必要かもしれないと考えております。担当課の方々も含め研究をして、適切な指標・目標設定出来ればよいと考えております。

参加者B：別件で事前意見の申込みをしておりますので発言は差し控えたいと思っておりましたが、今こういう場が設けられましたので切り口を少し変えてお話しいたします。伊藤圓子さんが市会議員になってから、初めて32まで議席を絞った中、5人の女性議員が誕生しました。きめ細かく市民の目線に立った形でこれからの行政に多少は期待出来るのではないかという気持ちを持っております。八戸市は、先人でございますが、羽仁もと子さんや素晴らしい女性を輩出してきております。ですから、皆さんも自信を持ってこれからの時代を開いていただく、そういう中で女性の問題が一番に取り上げられたのかと思っております。

参加者A：今回、ここにお並びの委員の女性の割合を計算させていただきましたら40%でした。他の色々な委員会に行きますが、ほとんど20%いかどうかという所だと日頃思っております。私はいつも女性の活躍や地域での活躍についてお話していますが、委員会にも是非女性を沢山入れていただきたと思います。先程、C委員がおっしゃったように、女性が活躍する時にどうしても子育て、育児、働くという事を支援していただかないと、そういう気持ちがあってもなかなか社会で働くのは難しいと思います。シニアの活用というお話がありましたが、地域の皆さんの活躍する場ともなるため、地域で子育てすることが大事になってくるのではと思います。その辺のところも是非、御検討いただければと思います。

委員長：ありがとうございました。他に何かございませんでしょうか。貴重な御意見を参加者の皆様、委員の皆様それぞれからいただきました。ありがとうございました。

委員長：それでは、次の事前の御意見に移りたいと思います。2つ目の意見として「今、改めて考えてみよう！なぜ八戸市は“市役所”ではなく“市庁”なのか？そこから八戸市の未来を考える！」という御意見です。これに対して追加の御説明がありましたらお願いいたします。

参加者B：総合計画では、その他の部分での意見だと思います。会場の皆様は、かなり若い方々も多くなってきておりますが、八戸市は何故「市役所」ではなく「市庁」というのか御存知でしょうか。明確に答えられませんか。市が市政30周年、岩岡徳兵衛市長の時に、古い庁舎の建て替えの際、市役所ではなくこれからは市庁でいこうといった事から、八戸市の別館の前の所に「八戸市庁」と強く謳われております。ネットで見てみますと、市庁を使っているのは横浜、奈良、金沢といった非常に個性的な、歴史と伝統を持つところが割と多いです。そういった中で今から55年程前に八戸市では八戸市役所ではなく「市庁舎」にしようという事で庁舎の立て替えから改称したわけでございます。実は、これは足元を考えて行く上で非常に大切だと思っております。当時の新聞には「八戸市新庁舎誕生100万都市を目指して」、つまり新産業都市の指定を受けて、誘致を行い三菱製紙が来たりと非常に八戸市は勢いがあった。18万、19万に人口が伸びている時の勢いが100万都市を目指していたわけです。先日の意見交換会の際に悔しい部分があり、今日公開討論会に参加しました。第1章の時代の動きで「今後も人口減少が進み、平成42年には20万人を割り込む」という、弱気なものが出来上がる数字は載せるべきでないと言いたい。八戸市はこれから大きく開けてくる要素があります。例えば国内で2番目の屋内リンクが出来る。そうすると、今まで八戸市に来たことのない国際的な試合が開催され、北欧など色々な所から新しい選手が家族と共に沢山来ます。大きいのは、メディアで世界に情報発信されるという事です。今の国体13回のレベルでは、とてもNHKでは取り上げてもらえないが、国際的な大会となると外国からもメディアが来て、八戸市の長根が世界的にPRされる。もう一点、三社大祭を含めたユネスコ無形文化遺産の登録を期待しております。これによって、マスコミからも色々な方々からも注目される。同じ重要無形文化財でありながら、なぜ青森のねぶたばかりNHKで取り上げられるのか考えてみてください。遺産登録となり、京都の祇園祭の山車や飛騨高山の祭と一緒にすることによって、NHKあたりが八戸の三社大祭がユネスコ無形文化遺産になったことを全国放送しようと動き始める。メディア効果も考え合わせながら、相乗的に八戸の発展を考えて行く必要がある。私はそういう風に考えて70歳になりました。以上でございます。

委員長：ありがとうございました。前からいらっしゃる方ですとその経緯はよく分かるのだと思います。スポーツあるいは観光、ユネスコの遺産登録という事も含めてお話しが出てきました。D委員、何か今の御発言に対して御意見を申し上げます。

D委員：男女共同参画、高齢者の活用という意見に対して賛成です。ただ、もちろん高齢者の方も元気に活躍していただきたいですが、その前に、今現在、あるいはこれから子どもをつくり育てていく人達がもっと活躍出来る社会、まちでなければならないのではないのでしょうか。そのためには、高齢者は一歩後ろに下がって若い人たちを支える、そういう風にした方が宜しいのではないかという意見を最初申し上げさせていただきました。そうでなければ、八戸市の人口がどんどん減っていきます。中には、生涯現役など、いつまでも元気という事を掲げて、いつまでも君臨している人もないわけではない。公的なものは、ある程度の立場の人には定年制というものをつくってもいいのではないかと申し上げました。皆様方で考えてい

ただきたいと思います。この意見がどれだけ皆様に理解されたか、あるいは事務局でどれだけ重要に取り上げられたかは分かりません。説明不足であったかもしれませんが、この考え方は今でも変わっておりません。あくまでも現役世代、つまり子育てを今現在、これからやる人達が一番でありたい。そのためには、高齢者の方は少し後ろに控えて、そういう人達を支えるような社会構造が必要ではないかという意見を申し上げさせていただきました。また、参加者Bさんには頭がさがる思いです。自ら朝市や色々なイベントでマイクを持ち、その場の賑わいを高める活動を今でも現役で行っていらっしゃる。こういう方は、本当に生涯現役で頑張っていていただきたいと思いますが、若い人を押さえるばかりでいつまでも君臨する人は引いてもらって良いのではないかと考えています。

委員長：観光を含めて、未来を考えるとやはり「市庁」で良いという御意見だと思うのですが、それについての御意見はございますか。

D委員：どちらでも良いというのが私の考えでございます。ただ、「市庁」と名前を付けた人の気概は受け継いでいきたいと思っています。現実、この人口予測というのは90%以上の確率で当たります。なんとかそれを跳ね返すような社会構造を今から作っていただきたいと思っています。少なくとも現状維持ぐらいで、予測が少し外れましたと何年か先の新聞に載って欲しいと思っています。「市庁」という言葉に関しては個性的であるから、むしろその方がよろしいのではないのでしょうか。建物のことであって、書類では役所というような書き方をしているものが結構ありますし、特にこだわりはないです。

委員長：他の参加者の皆様、そして委員の皆様方から御意見ございませんでしょうか。データのお話しもありましたが、こういうところも当初の委員会では議論となった記憶があります。特に、A委員はそのあたりのお話しがあったかと思っています。御意見ありましたらお願いします。

A委員：資料1の6ページの推計値を見ていただきたいのですが、10年後の数値は65歳以上の高齢者の割合が右肩上がり、15歳以下の割合が右肩下がりということで、どんどん減少する推計になっています。D委員より90%以上当たるとお話しがあり、外れてほしいのですが、どういう戦略を組まなくてはならないかを今やらないと遅いと思っています。八戸市でこの産業あるいは収入を支える為の労働人口は果たしていくら必要なのかという推計からいかなければならない。現状のままであれば、どのくらいの人口が無ければこのまちを支えていけなくなるのかという事を今議論して、これに対する目標を明確に設定して戦略を立てて行かなければならないところに来ている。分岐点は、ここではないかという風に感じています。九州の例を先程申し上げましたが、2.07という数値は非常にアグレッシブな数値目標です。普通の自治体ではおそらくそこまで踏み込まないであろうと思いますが、九州は九州で自分達の経済を独立してまわしていくという気概が見えています。それでは東北はどうでしょうか。特に短命県で青森県は最下位、その次は秋田県と、北の方は非常に短命県であり人口が減っていく比率が高い。それでは八戸市はどうやって中核市として守っていくのかということ、おそらく参加者Bさんが市庁の気概をもう一度見直してほしいという事を訴えられたと思うのですが、まさにそこが今問われているのかと考えます。部会でも具体的な議論をしていきたいと思っています。

E委員：町内会関係の代表で会議に出させていただきます。人口減少についてですが、町内会活動の中でも非常に住民自体の高齢化が進んでおります。また、市内の470町内の中には商業地、一般住宅地、沿岸部、農村部など様々ありますが、非常に独身の方が多い。農家の

方は結婚し生活できるかという不安があります。市で出している未婚率の統計を見てみましても、平成 22 年の資料では、八戸の男性 30.7%、女性 20.8%が未婚である。全国の結婚年齢の統計については、男性 31.1 歳、女性は 29 歳台で、20 年前と比べると 4 歳ほど遅く結婚することになっており、遅く結婚すると子供の生まれる人数が少ない。八戸市でもこのような事は町内会の会議の中で出ていますので、八戸市をあげて全国から嫁を募集するといった活動を専門部会の方で企画していただければ、全面的に我々は力を注ぎます。少ないお金の中でも夫婦揃えば生活出来ます。以上です。

参加者 B：私達の世代はもう伸びしろがありません。ですから過去を振り返ることで何か若い人たちに伝えていきたい、そんな思いが正直あります。八戸市の外国人は 3%位だと思うのですが、これから国内で 2 番目の屋内リンクが出来る、また三社大祭がユネスコ無形文化遺産登録される事で大いに交流人口を含め、外国から色々な方々が来られます。パンフレットや標識については、戦略の中に書かれておりますので、再確認の意味でお話しをさせていただきました。ほとんどの方は忘れていると思いますが、2003 年 1 月にアジア大会があり、それに間に合わせようという事で 2002 年 12 月に新幹線を頑張って開通させました。八戸は開業を急ぎ青森は譲歩した。そういった中で、八戸駅の中は 4 カ国語（日本語、韓国語、中国語、英語）が表示されています。色々な交流人口の中で、朝市などに外国の方々がお見えになっています。八戸の国際化に配慮していただきたいと思います。

委員長：ありがとうございました。本当に色々な貴重な御意見ありがとうございました。

委員長：それでは次の御意見に移りたいと思います。3 つ目の事前意見は「平成 22 年 10 月に閣議決定の「中小企業憲章」の取組を八戸市でも検討していただきたい。」という御意見でした。これについて補足説明ございましたらお願いします。

参加者 C：実は、平成 22 年ということでは相当年数は経ちましたが、これは閣議決定で中小企業憲章を制定するという事で私もそれを見続けていました。その中で、具体的に八戸市での中小企業の条例がございますが、この中小企業憲章で謳っている部分とは、目指しているところが若干違うのではないかと感じておりましたので、これを考えて頂きたいと申し上げたいのです。それに関して、青森県内では三沢市、十和田市で条例制定の動きがあり、既に取り組んでいる様子です。それは、中小企業振興基本条例ということで基本的な考え方を謳っておりますが、中小企業の方々がどのように事業を生かしていくかという部分について、地域の特性を生かし皆さんで守り育てて行こうといった考え方にはあたるのではないかと思います。包括的な部分で言えば理念条例という形にはなりますが、こういうところからまずは始めて、地域の事業者の方々が自分達の事業という部分をしっかりこれから考えていただく。後継者問題も起きておりますし、廃業を考えている事業者の方もおります。それが結果としては雇用の部分に影響が出たり、安心して働ける職場がないという事から子育ての部分にも影響したりと、色々な形で循環していく、影響のあるものと捉えておりますので、そこを補足させていただきます。八戸市でも中小企業振興基本条例という理念のあるものから考えて頂きたいという事をお願い申し上げます。

委員長：ありがとうございました。それでは只今の御意見に対しまして、何か委員の皆様から御意見ありませんか。

F 委員：基本条例を定めるというのは、今後市が中心になって検討していくことだと思います。私

達の部会から立案した総合計画には、中小企業憲章の内容の取組も含まれております。一つひとつ御説明していきます。中小企業憲章の 8 つの行動指針のうち、「一. 中小企業の立場から経営支援を充実・徹底する」という取組ですが、この場合には、今回生業づくりの戦略の中では、「1. 六次産業化プロジェクト」の施策 1 と施策 2、「2. 企業活性化プロジェクト」の施策 2 が対応していると思います。2 番目の取組として「二. 人材の育成・確保を支援する」を憲章に掲げております。これは「3. 雇用・起業促進プロジェクト」の施策 1、施策 2 が対応していると思います。「三. 起業・新事業展開のしやすい環境を整える」ですが、これは「2. 企業活性化プロジェクト」の「施策 1 企業誘致の推進」と「3. 雇用・起業促進プロジェクト」の「施策 2 起業の促進」の中に盛り込まれていると思います。「四. 海外展開を支援する」ですが、これも「2. 企業活性化プロジェクト」の「施策 3 貿易関連産業の振興」から、海外への地場製品の販売拡大を促進するに対応します。「五. 公正な市場環境を整える」は今回の総合計画外です。これは大企業がきちんと中小企業に不合理な負担を招かないようになど、そういう種類の話ですので、公正な市場環境を整えるというのは総合計画外と理解いたします。「六. 中小企業向けの金融を円滑化する」、これも不動産担保保証人への依存を減らすという銀行との関係ですので、これも今回私達の検討から外れておまして、「2. 企業活性化プロジェクト」の「施策 2 中小企業の活性化」の「経営相談の充実や資金面での支援を行います」に一部この取組については含まれていると解釈されます。「七. 地域及び社会に貢献できるよう体制を整備する」という取組ですが、これは「1. 六次産業化プロジェクト」の「施策 1 生産体制の整備」で一部行います。また、にぎわいづくりというまちおこしの中でも出てくると思います。「八. 中小企業への影響を考慮し政策を総合的に進め、政策評価に中小企業の声を生かす」というのは、今実際に中小企業の皆様の声を聞きながら進める。そのあとに「政策評価に中小企業の声を生かす」というのがあります。中小企業の声を生かすというのは、これから評価という事になりますから、その時には、今度行った施策が本当にうまく機能したかどうかは今後の課題になると思います。一応中小企業憲章の掲げている取組に関しては、ほとんどの部分が今回の戦略プロジェクトの中で対応を考えられていると私は解釈いたします。ただし、御提案のとおり、市に中小企業基本条例を策定してくださいという事は、また別だと思しますので、これは市の方に御答弁いただけたらよろしいかと思います。私からの説明は以上です。

参加者 C : お話しの内容を伺っている中で、実際には、それは戦術の話だと思います。具体的に何をするかという機関の中での戦術の話です。私が申し上げたいのは戦略の話です。やはり、長期的にどちらに向かわせるのか、方向を示していただく。その方向の中での取組を今お話ししていただいたと思います。そういう意味での価値観の部分をもう一回市の方で考えていただくという事であれば、その戦略性の方向性の部分として、この基本条例を御検討いただけないかと、私はそういう事をお願いしているという事です。

F 委員 : それは市の方で答えていただくしかありません。私達は与えられた生業づくりの戦略として何をするかというところと中小企業憲章との関わり合いをお話しして、かなりの部分は具体的に入っていますという事でした。市の方にお答えいただきたいと思います。

参加者 C : 補足しますと、実は八戸市にも中小企業振興条例がありますが、どちらかという私が勉強している中では、補助金を活用するための条例になっている。中小企業の皆様が自分達の事業をどんと構え、自分達の事業に対してどう考えていくかという話し合いをする場はあま

り無いのではないかと考えています。業界団体という言葉はあるかもしれませんが、そういう意味合いではなくて、地域に対してどのように自分達の事業が生かしているかという議論の場が無い。そういう意味でもやはり理念条例を制定いただきたいということでお話しをさせていただいております。是非それをご検討いただけたところがありましたら、よろしくお話ししたいと思います。

委員長：ありがとうございます。市の方で即答は難しいかもしれないのですが、何かお話し出来る事はありますか。

市：八戸市商工政策課です。今御指摘いただいた件につきましては、今後どういう風に取り組んでいけば良いかという事につきまして、引き続き検討して参りたいと思っております。

委員長：今の段階ではということですね。ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。それでは特に無いようですので、市で研究してもらえればと思います。ありがとうございました。

次第 3. フロアディスカッション (2) フリーディスカッション

委員長：それでは事前の御意見に対しての議論をしてきましたが、ここからはフリーディスカッションという事で、会場にお越しの皆様方から自由に御意見あるいは総合計画の内容に対して思った事、感じた事がありましたら何でも結構ですので、御意見を出していただければと思います。いかがでしょうか。

参加者D：本日出席した中で気が付いた事がございますので発表させていただきたいと思っております。青森県は日本一の短命県と言われている事もありまして、返上のため各地区で努力していると思うのですが、是川地区は非常に健診率が高く、厚生労働大臣から表彰されたこともあります。現在、保健推進員を中心にして、是川地区振興会、是川団地町内連合会、是川地区社会福祉協議会の3団体と一緒に、是川地区の健康づくり協議会を結成しております。市で出している特定健診率（国民健康保険の40歳以上の74歳未満の健診率）のデータでは、南郷地区が1位、是川地区は2位となっており、健診率を上げようとしているのですが、一番困っていることは地区の対象者の名簿が無いことです。保健推進員を通じて健診に行ってきたか、または行かなかった理由を聞くなどして、少しでも健診率を上げようとしているのですが、市の健康増進課の担当保健師に名簿をいただけないものかとお願いしているのですが、個人情報保護法に触れるため名簿は出せないという事でした。せめて一般の人に漏らさないような保健推進員など特定の人に名簿を提供いただければ、もう少し健診率を上げる事が出来るのではないかと考えており、それをお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長：健診率は2位であっても素晴らしい事です。個人情報ということで、非常に難しい部分があるのですが、例えば市内に色々な町内会があり、その中で何か参考になるような取組が今のお話しも含めございましたらお伺いしたいのですが。委員の皆様いかがでしょうか。

E委員：個人情報保護法という法律が出来て以来、名簿を市あるいは団体から提供いただけるのは、市に登録した障がい者の方と民生委員児童委員協議会からは75歳以上の方ぐらいしか名簿が出てきません。町内などでは民生委員をされている方においても、敬老会が済めばすぐ名簿を返却しなければならず、全く高齢者についての行政からの情報は得られません。やはり町内会に加入していただき、世帯台帳を書いてもらう以外方法はありません。それを目安に

して向こう三軒両隣の中での情報を得て行っているというのが実状でございます。6月1日に町内会に入っていない73歳の方がお亡くなりになりましたが、5日間亡くなっていたのが分からなかったそうです。実状、そういう事があります。町内会から行き立ち会いましたが、そういうのは地域で行っておりますので、名簿があれば良いです。特に、病気等については全く公表していただけないというのが実状でございます。

委員長：非常に厚い壁があって、なかなかこれは難しい問題ですね。何か参考になるような取組をされている参加者の皆さん或いは委員の皆さん、アイデア等ございませんか。

E委員：現在、取り組んでいる事をお話しします。当然町内会が主体になっていますが、社会福祉協議会の中でボランティアのメンバーを募り、ほのぼの交流協力員として下長地区では大体40名位が活動しています。各町内の一人暮らしなどの高齢者世帯を月1回巡回し、どういう状況であるかを2ヶ月に1回定例会を開いて情報交換を行っています。なかなか全部というのは厳しいですけど、回れる範囲で把握している状況でございます。

委員長：参加者D様、よろしいでしょうか。なかなか難しい部分が現実にはありますね。他にこれ以外の御意見ございませんでしょうか。

G委員：部会が違いますが、今回、魅力づくり戦略の中心市街地活性化プロジェクトについて要望があります。中心市街地活性化については、ここ何十年来ずっと言われてきているのですが、一向に活性化が出来ていないということで、私に言わせてみれば、言うだけのまちづくり、聞くだけのまちづくりに終わっているような感じがあえます。実効性がほとんど伴わない。実効性で具体的なものというと、各企業間などといった事で、こういった総合計画等には載ってこないのでしょうかけれども、要望として、活性化のためにもっと街中がワクワクするような場所の提供、そういった場所づくりを行政等がもっと具体的に考えて行動してもらいたいと思います。例えば、街中の路上で物販している方々がいるのですが、ずっとそれを認めているようです。観光客等が街中を歩いた場合にあまり清潔感がなく、あのままでいいのかと思います。それよりも、三日町の駐車場前辺りに市場をつくり、物販してもらい、近隣市町村の方も農産物等を販売できるような場所にして活性化を図ってはどうか。或いは、八戸酒類で新酒が出来た場合のたる開きの開催、合同酒精の焼酎とコラボした商品の販売・試飲、またその場所で地域の畜産・魚などの食べ方や商品紹介するような街中であってほしいと常々思っていますが、一向に伝えてくれそうもないということで、是非そういった事を考えていただきたい。また、発酵食品会社の太子食品もありますから、コラボした八戸発の発酵食品を作り販売するなど、市民の皆さんに親んでもらうなどのワクワク感のあるような市の活性化の意見は出ていないのか、また出ていてもそれを取り上げてくれるのかどうか。いわゆる言うだけのまちづくり、聞くだけのまちづくりになってしまっているような気がしますので、具体的に動いていくような計画を考えていただきたいと思います。

委員長：魅力づくりの戦略のところですね。現状と課題というところを含めて、具体的な戦略が掲載されています。具体的には、各部会で検討されている或いは検討するということになるかと思うのですが、部会長の方からお願いします。

副委員長：御意見ありがとうございました。専門部会では、その細かな、具体的なところの少し手前の大きい施策として、まちの回遊性をどうするか、スポーツの活性化をどうするか、アートによる活性化をどうするかという事が中心でございますので、今のような貴重な御意見は、今後の具体的な事業の中で市と議論されながら行われていくものだと思っています。御指摘

のとおり、様々な可能性、ポテンシャル、地域資源がまだまだあると思いますので、これからもそのような御意見をいただきながら、具体的な事業等を展開出来ればと思います。個人的な感想としては、他の市町村の街中と比較すると、八戸の街中はまだ元気な方だと思います。他と比べても仕方はないのですが、もっと元気になっていただければと思います。

G委員 : 関連して要望がございます。アートのまちづくりという事に関しては、今の美術館の所に新たに造り替えるというのではなく、出来れば三八城公園の中にそれなりの美術館を造り、三八城公園が市民の憩いの場になるような都市計画を考えていただきたい。回遊性も出てくるのではないかと思いますので、要望としてよろしく申し上げます。

委員長 : ありがとうございます。それ以外に何かございませんでしょうか。

H委員 : 今回このような会を開催し、市民の参加者が何人いたのか目算しておりました。第5次総合計画後期推進計画を策定した時には、このような大きな討論会は無かったように覚えています。このような会を開いた時に、このくらいの人しか集まらない、このくらいの方達が集まってくる八戸なんだと見ました。私も所属団体や知人に公開討論会がある話をしましたが、時間があっても市役所のような所で意見を言えないからと話す女性や、そういう所に行ってもしょうがないというような意見が沢山ありました。先程の女性の進出などについて、高齢の方達の意見、子育て世代の方達から意見をもらうため市民全体に声をかけた時に、もう少し皆さんがここに興味を持って馳せ参じていただければと思っています。これが民度でもありますし、各選挙の投票率が落ちているという事も含めて、政治や市にあまり期待していないのかなと思ったりもするのですが、自分達がどの施策の元に暮らしているのか、どういう動きがある中で生活をしているのかを知らずに、ただ暮らしているという状況はとても悲しいです。文句や色々な意見を言い、それを取り入れてもらいながら、暮らしていき、皆でという「協働」という言葉もありますので、こういう会がありましたら、もう少し参加していただければと思います。また、平日の日中、この時間帯に声をかけるというのは難しいです。日程的にそうだったのかもしれませんが、やはり、ここに来ている方達を拝見すると、年齢の高い方や日中仕事をなさっていないと見受けられる方達が多いので、もし、今後こういう形をもう少し小規模で出来るのであれば、夜や土日の開催や、女性だけ集めてみたりするなど少しハードルを下げ、話しやすい会をこまめに開き意見を汲み上げていき、良い八戸になっていければと思います。

委員長 : ありがとうございます。これまで市民の皆さんの意見を聴取するという事で、いくつかアンケート、ヒアリング等を行ってきており、なるべく市政として市民の意見を反映させていただきたいということです。この公開討論会は、確かに一般的には勤務している時間帯ということになるのかと思います。私も会議を土日に行うケースが結構あります。今回は色々な事情でこのようになりましたが、事前に様々な状況を把握して、開催方法を変える事が出来るのではと思っており、なるべく市民が参加しやすい時に開催するべきだと思います。市民に感心を持ってもらうためには、こういうプロジェクトを含めて成果を出す事だと思います。情報発信して、市民の目にみえる形にする事が一番です。ですから、今回の第6次総合計画に関してのそれぞれの部会、委員会、そして今日は市民の皆さんの御意見をいただいたという事で、それを踏まえて、最終案を作ることとなりますが、検討し良いものを実行して成果をあげるというところに繋げるため、今後も委員或いは関係者それぞれの努力が必要になると思います。そして、今回のような公開討論会は継続していくことが大切です。この総

合計画は1回ですが、その他にも色々な委員会もあると思います。内容によりますが、市民の意見を直接聞くという事は非常に大事であるとは私は考えます。今後、今の意見を踏まえてやり方も少し変え、成果をあげるため関係者も努力しなければならないという事だろうと思います。ありがとうございました。

次第 4. 意見交換の総括

委員長 : それでは、予定していた時間となりました。皆様から多くの貴重な御意見をいただきました。事前に御意見をいただいていた女性の参画、高齢者の活躍については、元気な能力のある人は沢山いますので、少子高齢化の中で活躍していただきたいと私も常に思っている事です。また、「市庁」という呼称は、名前の問題ではなく当時の意気込み、気持ちを汲んでもう一度頑張ろうという事だと思えます。それも、様々な政策を実施していく中、そして今日のように協働し、何処かの機関だけがやるのではなく、そういう場面にも情報共有やコミュニケーションを図りながら行っていく事が大事だろうと思います。是非、意気込みは継続していくべきだと思っています。中小企業憲章に関しては、少し法律的な部分がありますので、市に研究してもらおうということになるかと思えます。ただし、実際、憲章の中にあります行動指針に対応するような施策・プロジェクト・事業を実施している事も事実です。実施している事はそれで良いのですが、市にも憲章のところは様々な情報を収集して新たな研究をしていただきたいと思えます。健診率は是川地区が2番というお話もありましたが、予防健康は非常に大事だと思えます。そういう意味でも感じるのは、町内会のコミュニティをどう築いていくのかということです。難しい部分はもちろんありますが、結局そこが上手く機能していると、ある種の情報が収集できるのかと思えます。しかし、限界はあるだろうと思いつつも継続的なコミュニティづくりの取組が必要です。町内会の加入者が増えている所もあれば、人口減により減っている所もありますので、何か工夫が必要だと感じます。コミュニティの部分に関しては、プロジェクトの中に盛り込んでおりますので、活性化を含めて、そういう中での一部で貢献できるのではないかという感じはしております。なかなか一言でまとめるのは難しいのですが、まずは多くの皆様方に貴重な御意見いただいた事を改めて感謝申し上げます。

それでは、本日いただいた御意見は、今後のまちづくりにおいて様々な点で参考になる部分もありますので、可能な限り取り組んでいければと思っております。7月の最終委員会の中で計画最終案を取りまとめますが、その中でまた議論が必要なものは事前に議論していきたいと思っております。公開討論会に関する総括は以上となります。進行を司会に戻します。

事務局 : ありがとうございました。最後に皆様にお知らせいたします。先程、御紹介しました第6次総合計画の原案は、本日よりパブリックコメントとして皆様からの御意見を募集しております。皆様には、本日の公開討論会に御参加いただいたところではございますが、御意見等ございましたら7月9日までに事務局である政策推進課まで御提出くださるようお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第6次八戸市総合計画「公開討論会」を終了させていただきます。本日は、長時間にわたり皆様どうもありがとうございました。